

平成30年度

自己点検・評価書
(学校評価報告書)

大阪教育大学附属平野中学校

1 附属平野中学校の現況

(1) 学校名

大阪教育大学附属平野中学校

(2) 所在地

大阪市平野区流町2-1-24

(3) 学級数・収容定員

9学級(1学年3学級) 収容定員348人(1年生……1学級36人、2・3年生……1学級40人)

(4) 幼児・児童・生徒数

348人(男子150人・女子198人)

(5) 教職員数

校長(併任) 1人、副校長 1人、主幹教諭 1人、指導教諭 2人、教諭 15人 非常勤講師 12人
事務補佐員 4人、<図書館司書1人>、用務員2人(うち併任1人)

2 附属平野中学校の特徴

伝統的に「行事で育つ附中生」と言われている。たとえば伝統行事の一つとして、昭和22年から、毎年、臨海学舎を実施しており、現在は岡山區倉敷市(六口島)で、1kmと3kmの遠泳を行っている。また、大阪教育大学、附幼・附小・附高・附特支と連携・共同を基盤とした教育研究を推進している。

3 附属平野中学校の役割

- (1) 大学と一体となって、教育の理論と実際に関する研究並びにその実証を行う任務
- (2) 大学学生の教育の実地研究を行う任務
- (3) 他の学校との研究の交流を行い、提携して教育の振興に努める

4 附属平野中学校の学校教育目標

生徒一人ひとりの個性を尊重し、すべての素質を可能な限り最大限に発達させるために周到かつ細心な指導を徹底する。とくに教員と生徒、保護者、生徒相互との緊密な人間関係を確立し、自主的な生活態度と学習意欲を育成しながら、質実剛健な人間教育を期している。

(1) 物事を合理的、科学的に探究し、豊かな創造性をもつ人間

- ① 真理を追求し、そのことのすばらしさを理解することができる。
- ② 物事を正しく判断することができる
- ③ 知識・技能を整理し、活用することができる
- ④ 創造性を高めるために、たえず努めることができる

(2) 集団の規律を育て、情操豊かで、実践的意志をもつ人間

- ① 寛容の心をはぐくみ、互いに敬愛し、友情を育てることができる
- ② 集団の意義を理解し、協力しあって集団生活の向上に努めることができる
- ③ 自然や芸術に親しみ、そのすばらしさに深く感動する心をもつことができる
- ④ 清らかな心を持ち、礼儀正しく、品位ある行動をとることができる
- ⑤ 物事に積極的に取り組み、計画を立て、着実にやり抜く強い意志を持つことができる

(3) 自他の生命を尊重し、心身を鍛え、健康の維持増進に努める人間

- ① 自他の生命を大切にすることができる
- ② 質実剛健の精神を大切にすることができる
- ③ 健康でたくましい心身の鍛錬につとめることができる
- ④ 心身の健康に関する知識を身につけ、明るく豊かな生活を営むことができる

5 附属平野中学校の学校教育計画

(1) 学校努力目標 「考え、確かめ、発動する力を育む」

平成30年度も引き続き「考え、確かめ、発動する力を育む」を学校努力目標とする。三年目の今年、生徒の頭には「考える」「確かめる」「発動する」という三つの動詞がしっかりと刻み込まれていることだろう。この基本の動詞はそのままに、一年ごとに、少しずつ修飾語をつけ、レベルアップを図る。昨年度は、それぞれの動詞の前に、「客観的に自分を見つめながら」という行為を付け加えた。「客観的に自分を見つめる」つまり、「自己を認識する」ということは、簡単なようで、大変難しい課題である。一年間で、自分はどのくらい変わる事ができたか答えられる人は、きっと自己を認識する力が育った人であろう。

今年さらには、それぞれの動詞の前に「主体的に」という修飾語をつけることを目指す。「主体的」を言葉を複数の辞書で調べてみると、つぎのように説明されていた。

A「自分で問題意識をもち、積極的に行動するようす。」(例解新国語辞典)

B「自分の意志や判断によって行動するさま。」(明鏡国語辞典)

C「他のものによって導かれるのではなく、自己の純粋な立場において行うさま。」(広辞苑)
これらをまとめると、「自分(自己)」の「意識(意志・立場)」で「行動する(行う)」ということになる。今年一年、この「主体的」ということばにもこだわって「考え」「確かめ」「発動」してほしい。また、自分にとって、「主体的」とはどういうことかも併せて考えてほしい。

(2) 平成30年度 重点努力目標 『生きる力』の育成と『確かな学力』の保障

「考え、確かめ、発動する力を育む」ために、引き続き、『生きる力』の育成と『確かな学力』の保障を学校づくりの重点努力目標に設定した。

子どもたちは、今後、社会で生活していく中で、さまざまな壁にぶつかることがあると考える。その壁にぶつかったとき、壁を乗り越えよりよく生きていくために必要となる力として、「思考力」「判断力」「表現力」「創造力」「発想力」など、さまざまな力をあげることができると考える。上述のように、「考える力」「確かめる力」「発動する力」もその一部である。

これらの力の総体は、とりもなおさず「生きる力」と「確かな学力」といえることができる。「安心・安全・信頼される」学校において「健やかな身体と豊かなこころを育む」教育活動を行い、「考え、確かめ、発動する力」を育むことで、「生きる力」と「確かな学力」が醸成できると考えている。支援・指導の目標は以下のとおりである。

① 安全で、安心して過ごせる教育環境の整備

☆組織的な対応を通じて、どの子どもも支える

- 教職員全員で危機管理・危機対応に向かう
- 子どもの変化を見取り、子どもの悩みに答える
- 安全で清潔な学習環境を整える

② 健やかな身体と豊かなこころを育む教育活動の充実

☆3年間の見通しをもって、どの子どもも育む

- 臨海学舎・体育的行事・学校保健・保健体育教育を通じて健やかな身体の基礎を育てる
- 学校行事・生徒会活動・係り活動を通じて社会性を育てる
- 道徳教育・進路学習を充実し、豊かなこころを育み自分の生き方を考える

③ 「考え、確かめ、発動する力」を育む

☆授業改善をとおして、どの子どもも伸ばす

- 「考える力」「確かめる力」「発動する力」の本質を見極め、三つの力を相互に働かせる機会を明確に位置づけた授業づくり
- 「基礎学力の定着」と「創造性の伸張」のバランスのとれた授業づくり
- ICT機器の活用やアクティブ・ラーニングを取り入れた授業づくり

6 附属平野中学校の平成29年度 重点目標(評価項目)、具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	「自分自身の未来を切り拓く力を育む学校」
学校教育計画	(1)「安全で、安心して過ごせる教育環境の整備」 (2)「健やかな身体と豊かなこころを育む教育活動の充実」 (3)『生きる力』の育成と『確かな学力』の保障

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) 安心・安全・ 信頼される学 校	①教職員全員で危機管 理・危機対応に向かう。	・今年度も引き続き消防や警察と連携し、 防犯・防災・防火訓練および水泳事故緊 急通報訓練(救助を含む)を実施した。 ・訓練に際して、状況をよりリアルに設 定するとともに、マニュアルの見直しを 行った。	・訓練の状況設定をさらに多様化 し、事件・事故が起こりうる可能性 を一つずつ試行し、どのような状 況にも対処できるような態勢を整 えたい。	A	・災害はいつ何時やってくる か分からないので、それ に対応できるよう、できる だけ多くの訓練パリエー ションを用意するのは大切で ある。	A	・来年は、今年想定しなかつ た状況下での訓練を企画し ていく。
☆組織的な対 応を通じ て、どの子 も支える	②子どもの変化を見取り、 子どもの悩みに答える。	・学年会議、職員会議などで教員間の 生徒指導情報交換を確実にし、早 期発見、対処に努めた。 ・カウンセリングに関する研修を行い、 基本的な技術の再確認などを行った。	・いじめの定義を再確認し、「学校 いじめ防止基本方針」の改訂を行 う。 ・教員間の情報共有のあり方につ いて再考する。	B	・いじめ問題は多種多様化 している。「学校いじめ防 止基本方針」の改訂は急 務である。	B	・「学校いじめ防止基本方 針」の改訂を急ぐとともに、 いじめの早期発見、早期対 応に努める。
	③安全で清潔な学習環 境を整える。	・校舎改修事業に際して、安全面に十 分配慮した環境作りを行った。 ・清掃状況を見直し、用具の再検討な ど、より効果的な方法を考案した。	・ハードウェアの整備は相当進ん だが、引き続き維持管理を入念に 行う必要がある。 ・体育館の熱中症対策について、 引き続き大学などに働きかける必 要がある。	A	・校舎改修のいい影響が子 どもたちの学校生活にもよ く出ている。美しくなった 校舎の維持管理を入念に 行ってほしい。	A	・次年度も校舎改修事業が 正式に決まっている。今ま でのノウハウを活かし、より 快適な空間を作れるように 努力する。

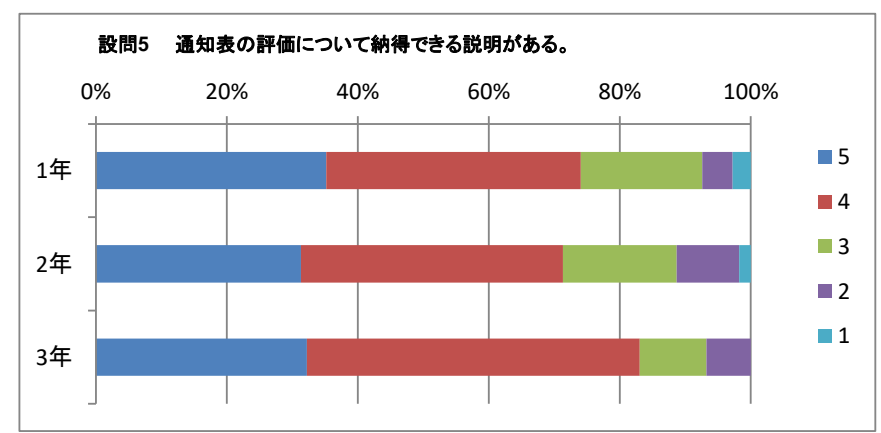
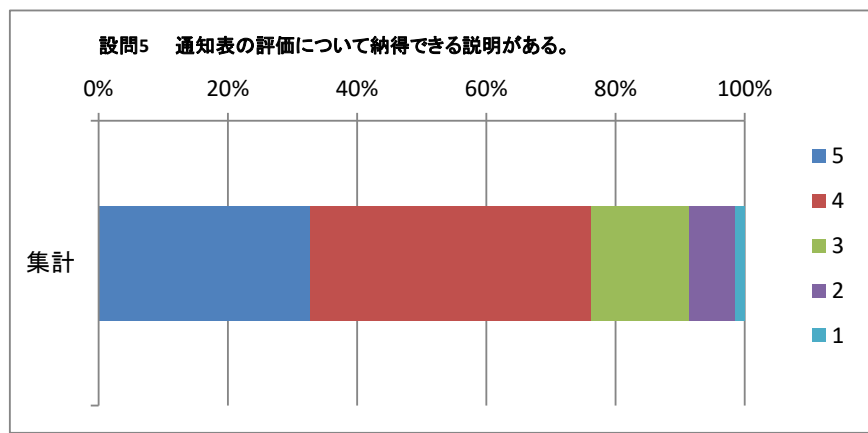
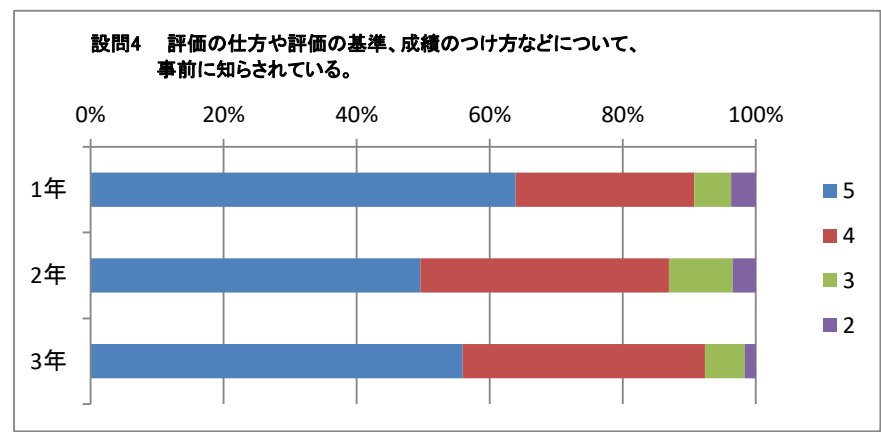
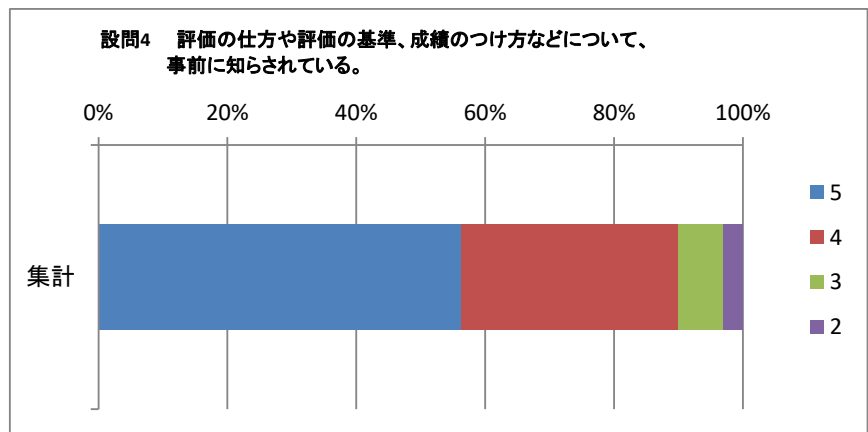
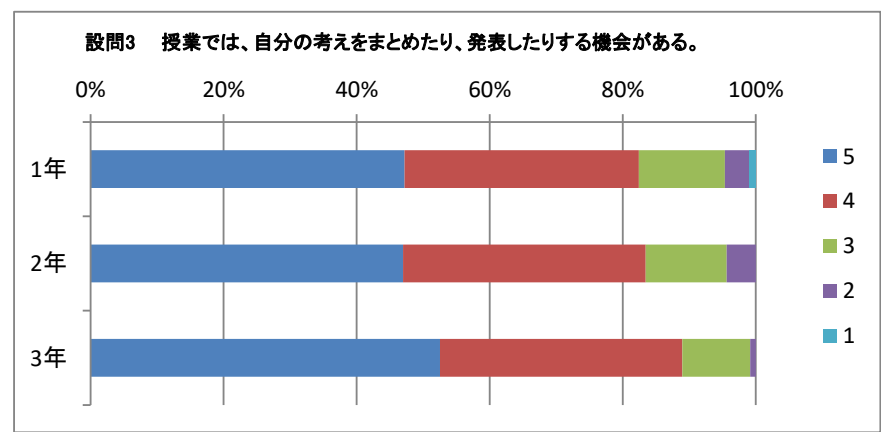
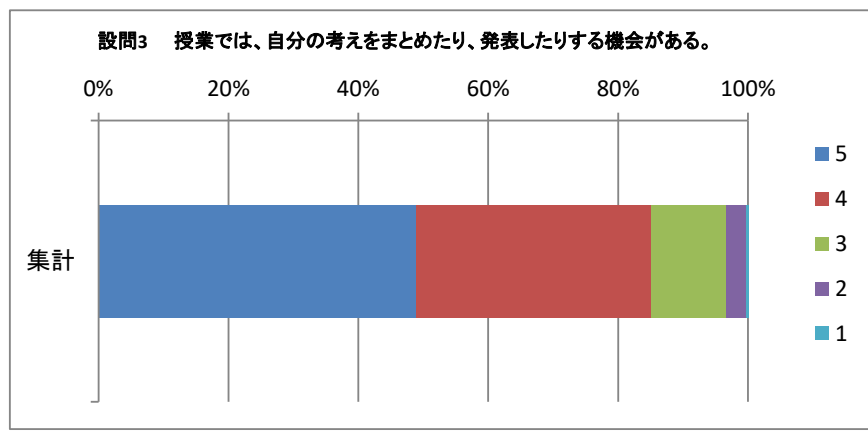
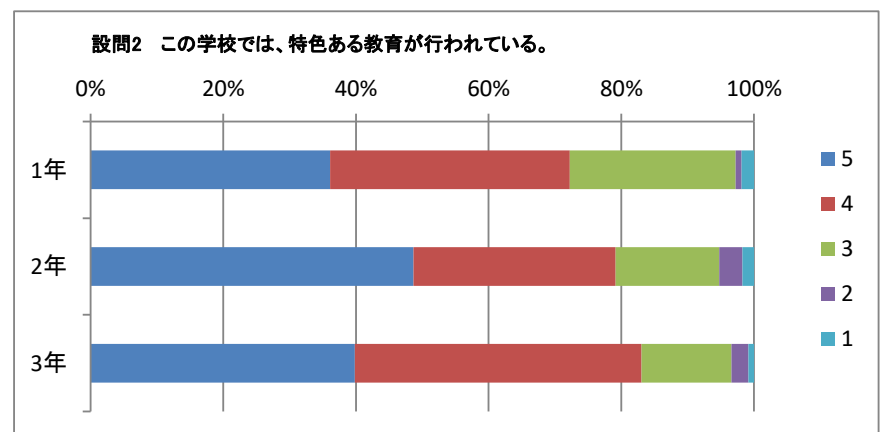
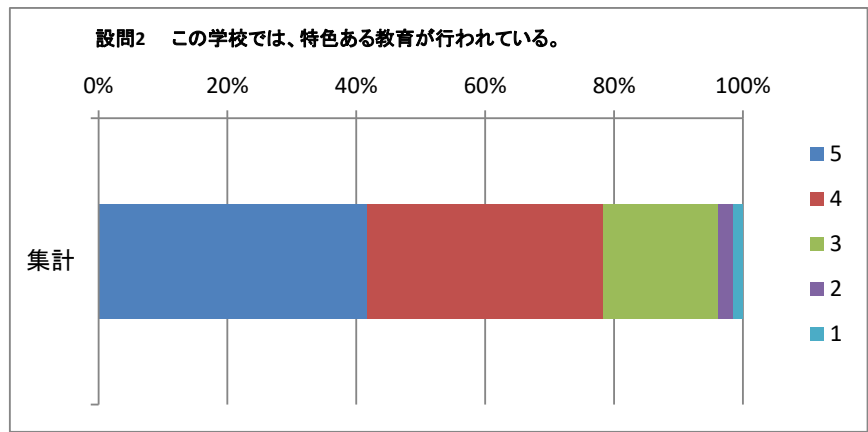
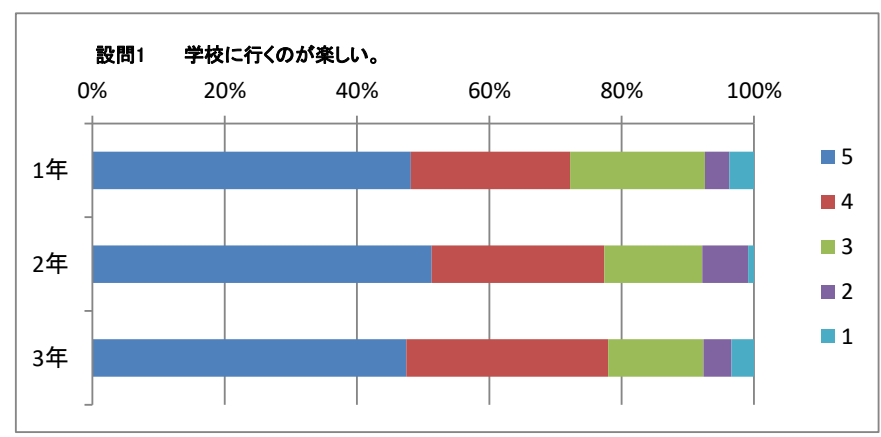
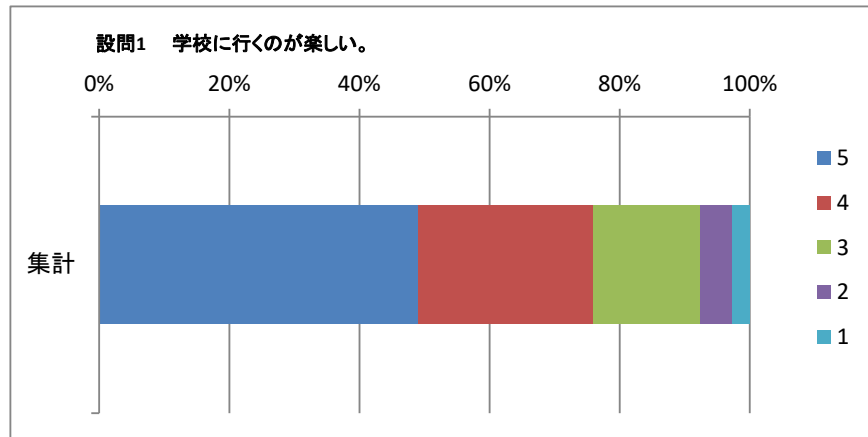
<p>(2)</p> <p>健やかな身体と豊かなこころを育む学校</p> <p>☆3年間の見通しをもって、どの子どもも育む</p>	<p>①臨海学舎・体育的行事・学校保健・保健体育教育を通じて健やかな身体の基礎を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 臨海学舎では、遠泳のサポートについて事前協議の質を高め、安全性を高めることができた。 負荷心電図の実施時期を改め、より効率的にできるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 慢心、油断することなく、常に安全を意識した体制を構築できるようにする。 引き続き、健康への意識を高められるよう、啓発活動をおこなう。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 取り組みがシステマティックに整備されているように思う。良いことだが油断は禁物である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 人が代わっても取り組みがスムーズに引き継がれるよう、マニュアル化を進める一方、毎年毎年の振り返りを一層大切にす。 	
	<p>②学校行事・生徒会活動・係り活動を通じて社会性を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 災害プロジェクトを組織し、街頭募金活動などを通じ、被災地支援を行った。 カエルキャラバンでブースを担当し、地域との交流を支えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ひらのBOSAIキャラバンの幹事校となるにあたり、活動の幅を広げられるよう、生徒会を中心に綿密に計画をたてる。 	<ul style="list-style-type: none"> ひらのBOSAIキャラバンは、2年目を迎え、地域のイベントとして定着へと向かっており、たいへん喜ばしい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 中学生の参加は年々増えている。来年度は勤務割り当てを調整し、教員の参加も無理なくできるようにしたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学年ごとに指導案の検討などで蓄積したものをデータベース化して、外部へも発信していきたい。
	<p>③道徳教育・進路学習を充実し、豊かなこころを育み自分の生き方を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 研究発表会では全クラス道徳の授業を公開した。提案性のある教材設定が注目を集め、多くの参会者と意見交換することができた。 多様な進路希望に対応できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業検討会をさらに充実、拡大させるため、縦割りでの検討を模索する。また、評価方法の検証に努め、よりよい方法を考案する。 	<ul style="list-style-type: none"> ここ数年、著しく取り組みが進んでいる。この調子でさらに進めてほしい 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学年ごとに指導案の検討などで蓄積したものをデータベース化して、外部へも発信していきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学年ごとに指導案の検討などで蓄積したものをデータベース化して、外部へも発信していきたい。
<p>(3)</p> <p>「考え、確かめ、発動する力」を育む</p> <p>☆授業改善を図り、どの子ども伸ばす</p>	<p>①「考える力」「確かめる力」「発動する力」の本質を見極め、三つの力を相互に働かせる機会を明確に位置づけた授業づくり。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 道徳、総合的な学習において、「考える力」「確かめる力」「発動する力」とは何かを追求し、グロスアリー(用語集)を完成することに加え、教科におけるグロスアリーの改訂を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> グロスアリーについて、教科単位で引き続きブラッシュアップを図るとともに、教科間での整合性についても吟味し、学校としての統一性を模索する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> グロスアリーについては、毎年見直しを図り、より附属平野中学校にフィットしたものに変わってほしい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> グロスアリーについては、引き続き精査し、教科間の整合性を図りながら、完成度を高めていきたい。 	
	<p>②「基礎学力の定着」と「創造性の伸張」のバランスのとれた授業づくり。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習JOINの内容と方法を見直し、体系的な整理に着手した。特に発表方法については、ポスターセッションを積極的に取り入れ、生徒の発表力向上に成果が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> アドバンススタディのありかたについて、課題が明らかになってきている。取り組み自体の効果と、生徒や教師の負担感を正しく検証し、改善の方法を探る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「基礎学力の定着」と「創造性の伸張」のバランスを取るのなかなか難しいことである。思い切った見直しも必要かもしれない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> アドバンススタディのありかたについては、ある程度大きな変革が必要である。前年踏襲にならないよう、力を注ぎたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> アドバンススタディのありかたについては、ある程度大きな変革が必要である。前年踏襲にならないよう、力を注ぎたい。
	<p>③ICT機器の活用やアクティブ・ラーニング(AL)を取り入れた授業づくり。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ICTにせよ、ALにせよ、通常の授業の中で、特別に意識せずとも取り入れられているような状態になりつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> もう一度、「主体的」な学び、「対話的」な学び、「深い」学びとは何か、原点に立ち返りながら考える必要がある。 ICT機器の計画的な整備・更新について検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 平野五校園の研究主題である「主体的」ということについて、教科レベルでも考えてみる必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年の研究により、道徳と総合で、「主体性」について共通理解ができたので、来年度は各教科レベルで「主体性」「主体的」とは何かについて掘り下げたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年の研究により、道徳と総合で、「主体性」について共通理解ができたので、来年度は各教科レベルで「主体性」「主体的」とは何かについて掘り下げたい。

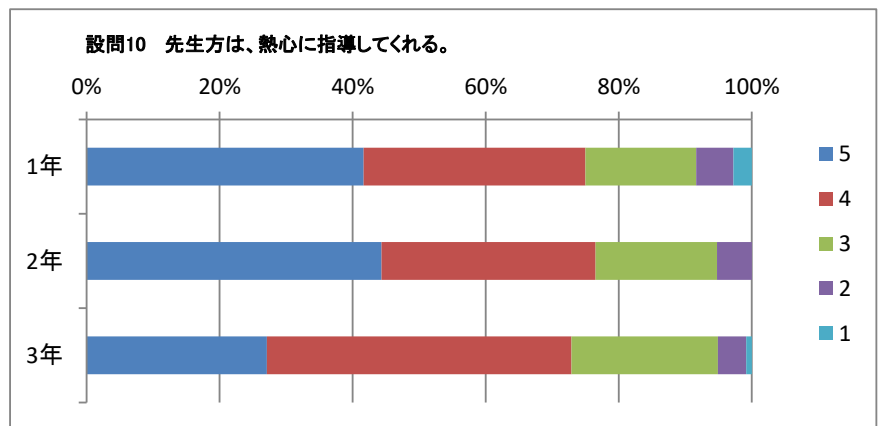
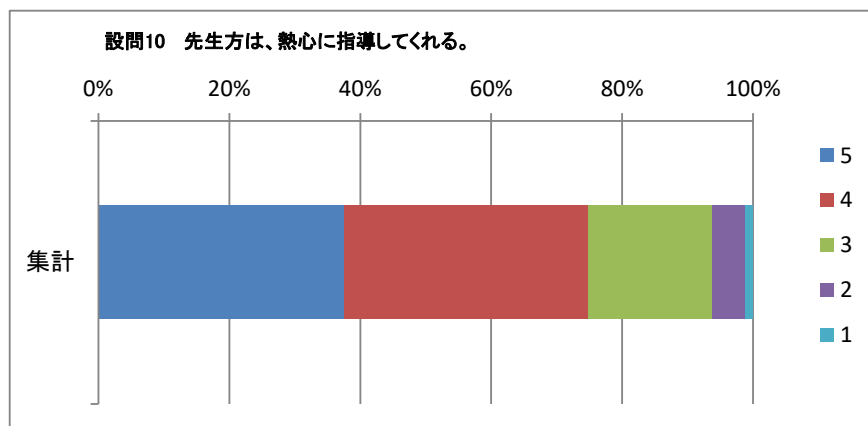
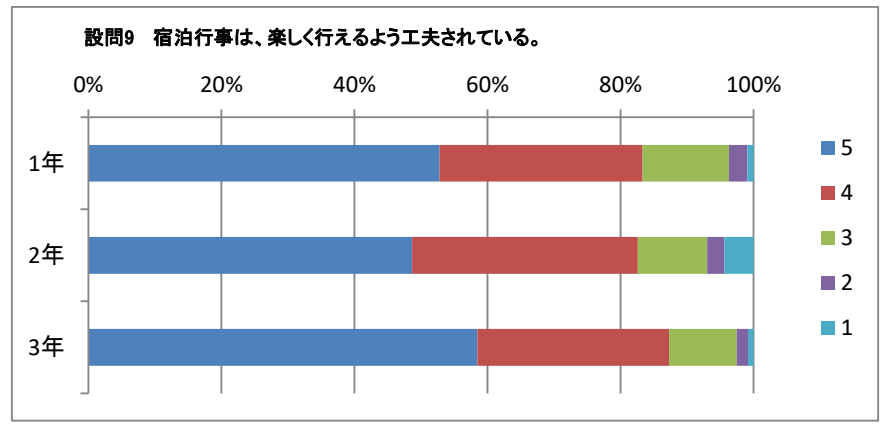
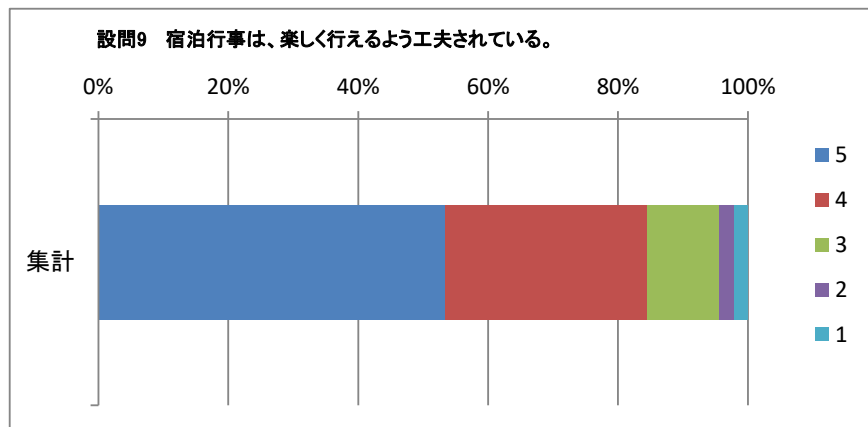
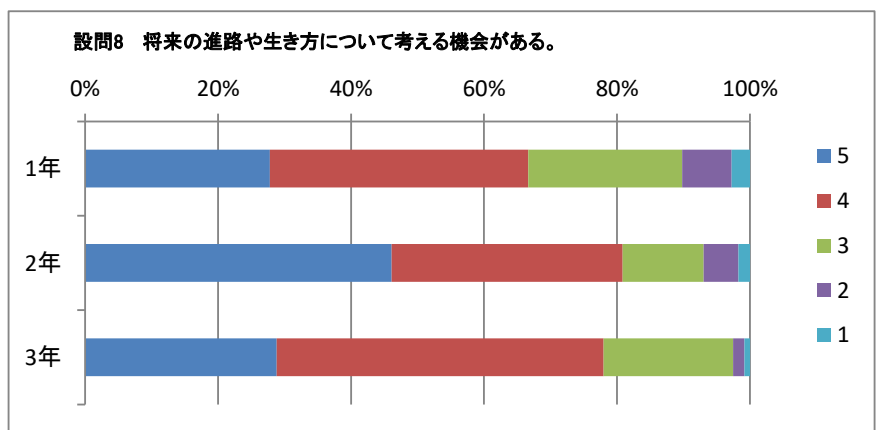
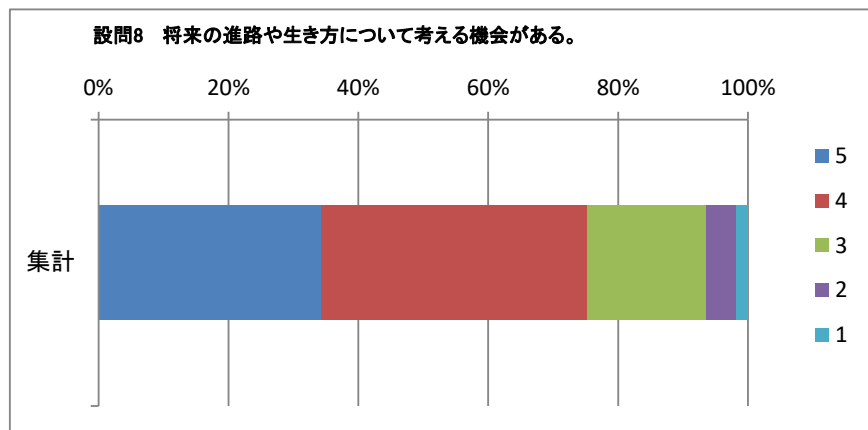
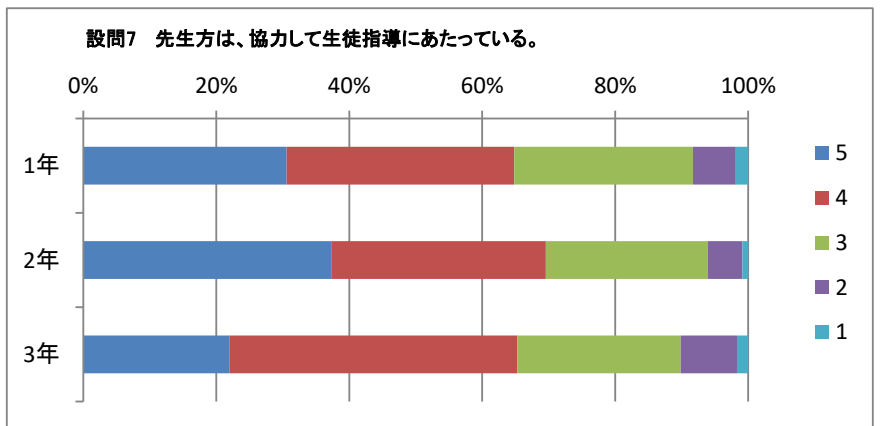
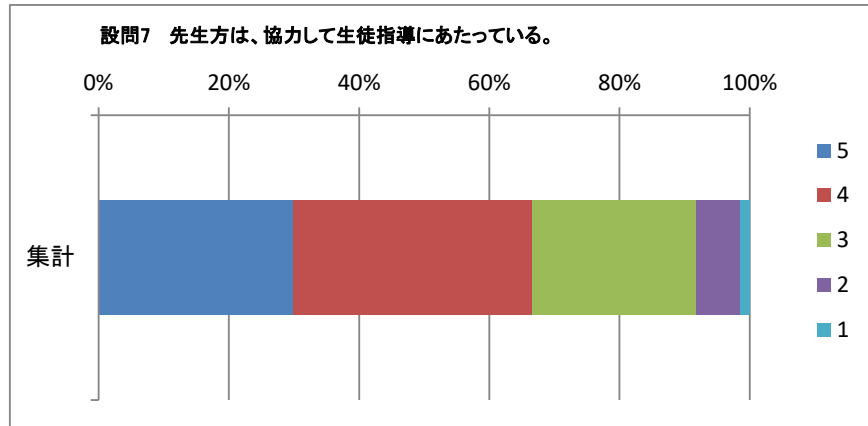
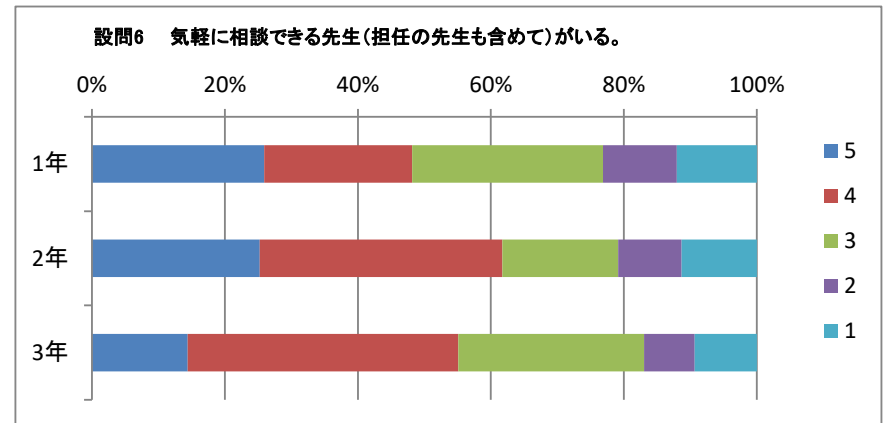
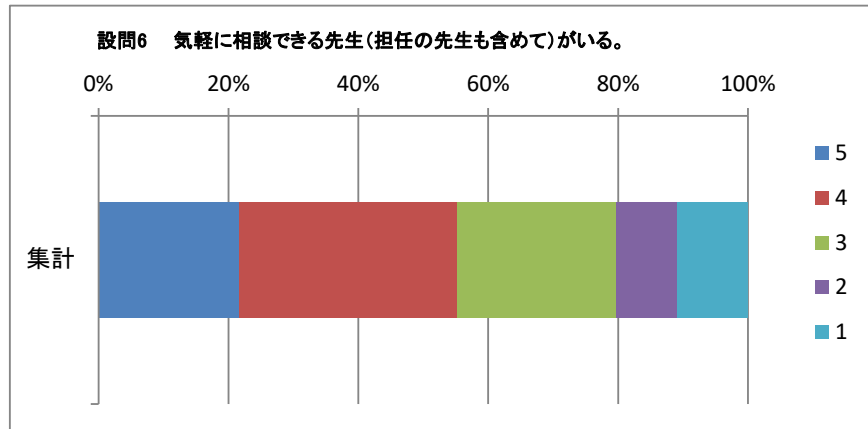
平成30年度 生徒対象 学校診断アンケート結果 H30.12.3実施

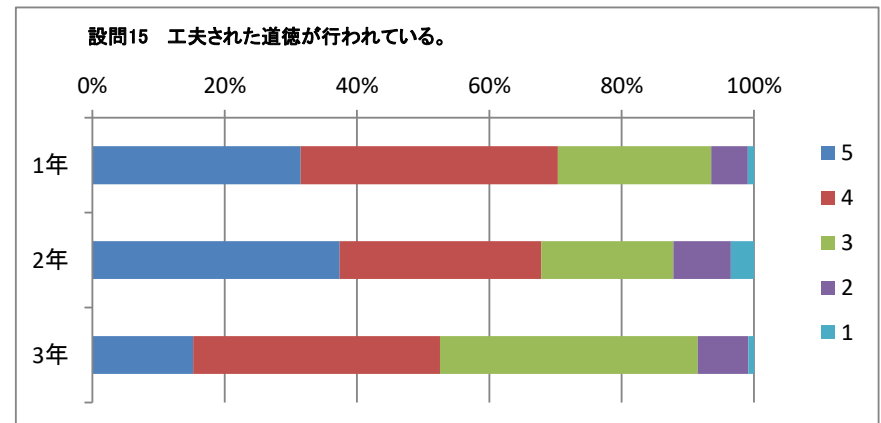
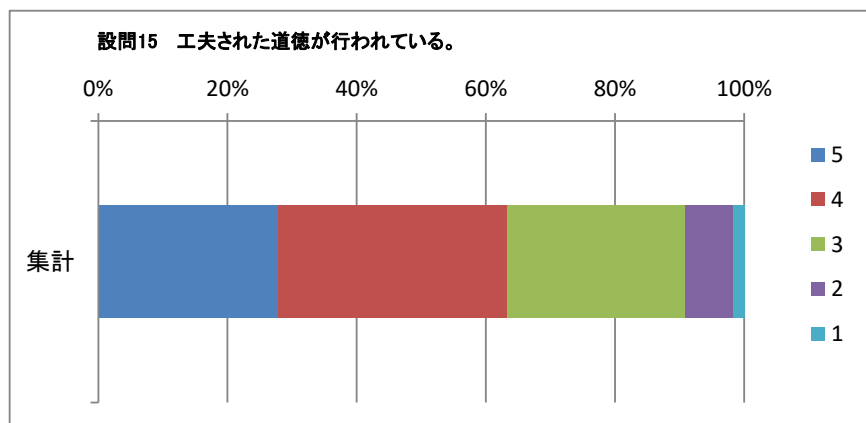
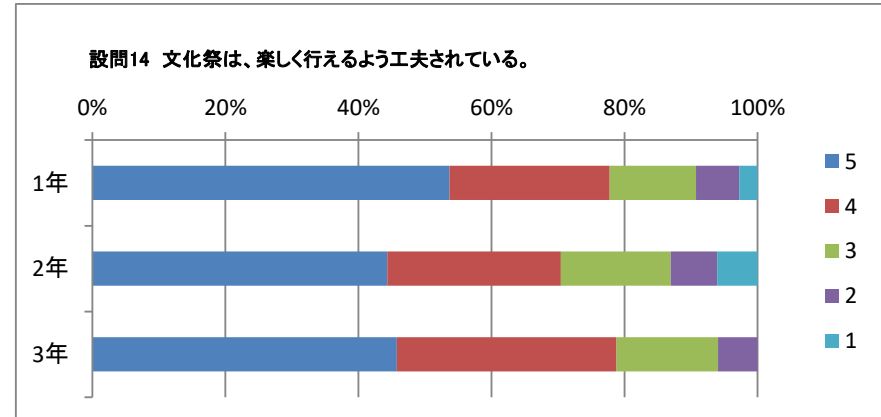
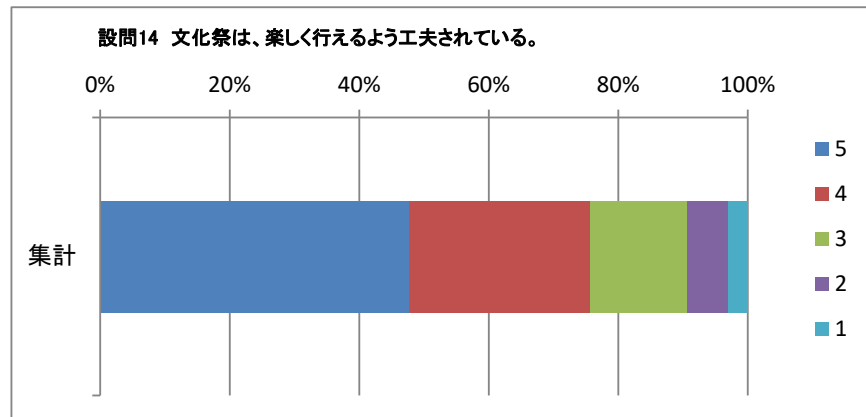
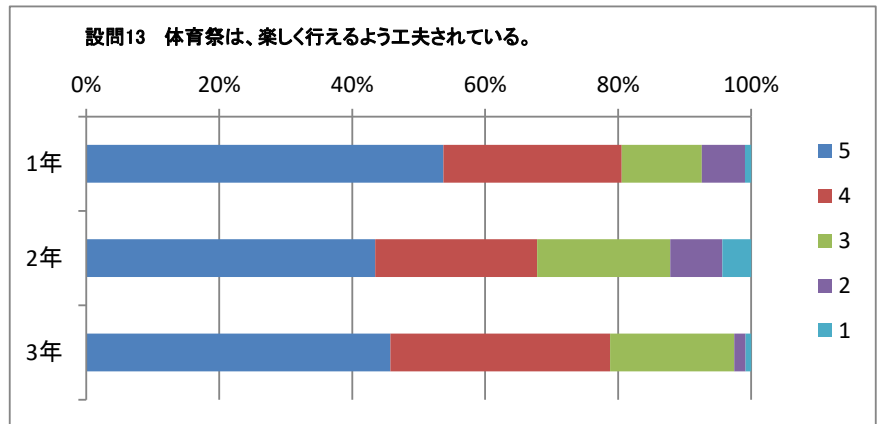
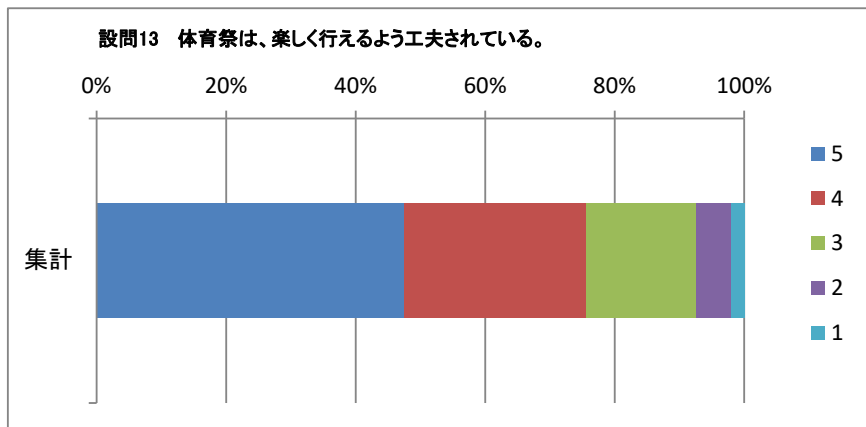
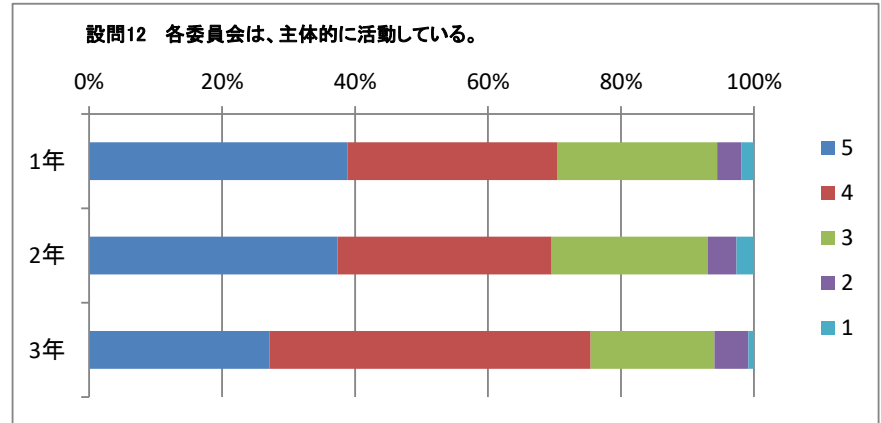
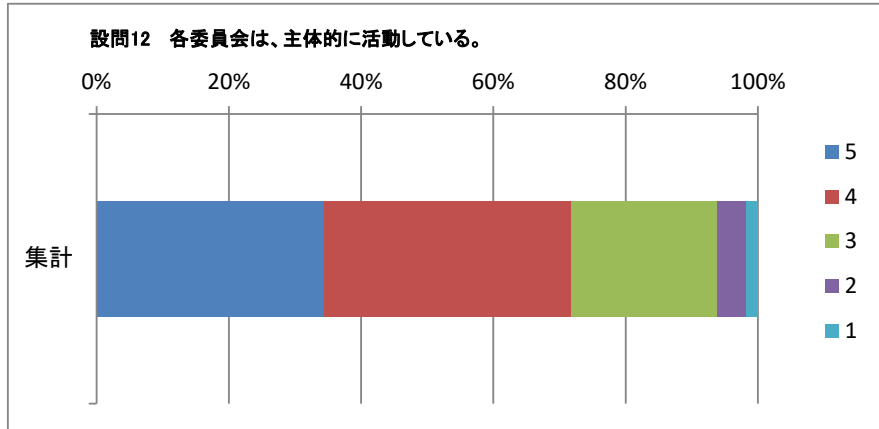
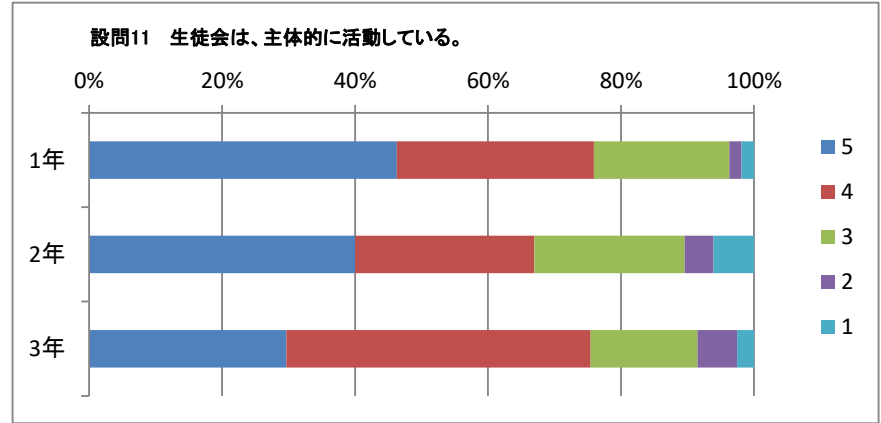
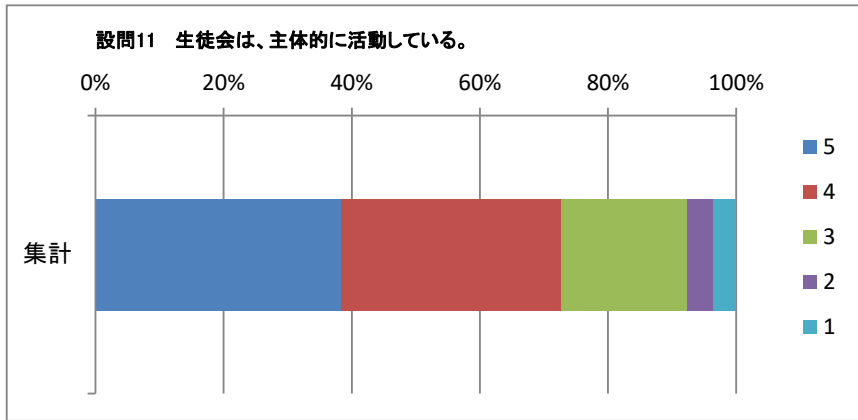
- 5 ■ とてもあてはまる
- 4 ■ 少しあてはまる
- 3 ■ どちらともいえない
- 2 ■ あまりあてはまらない
- 1 ■ あてはまらない

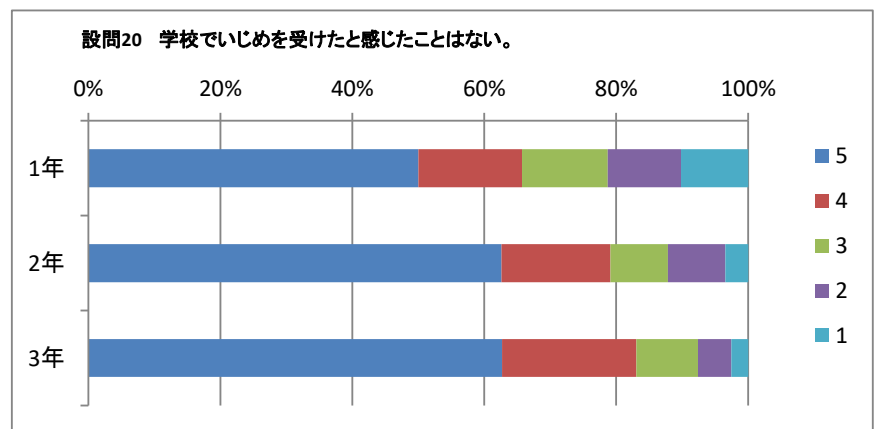
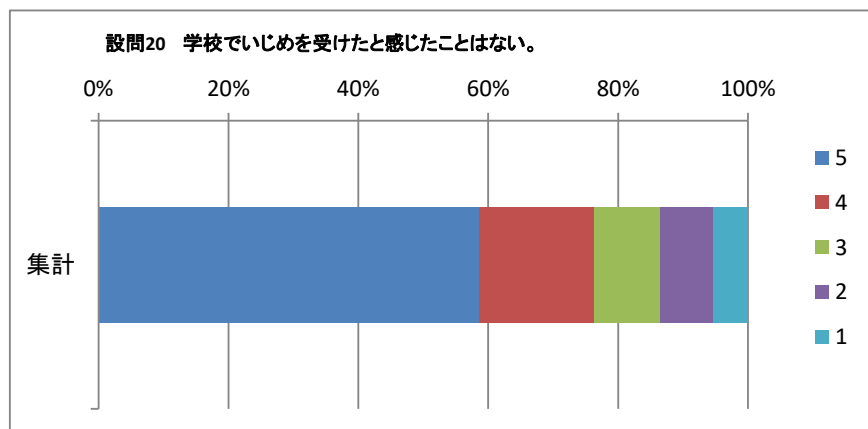
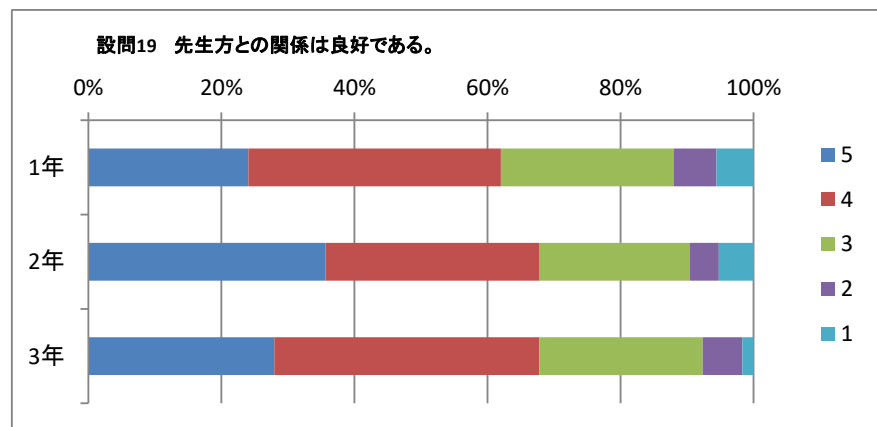
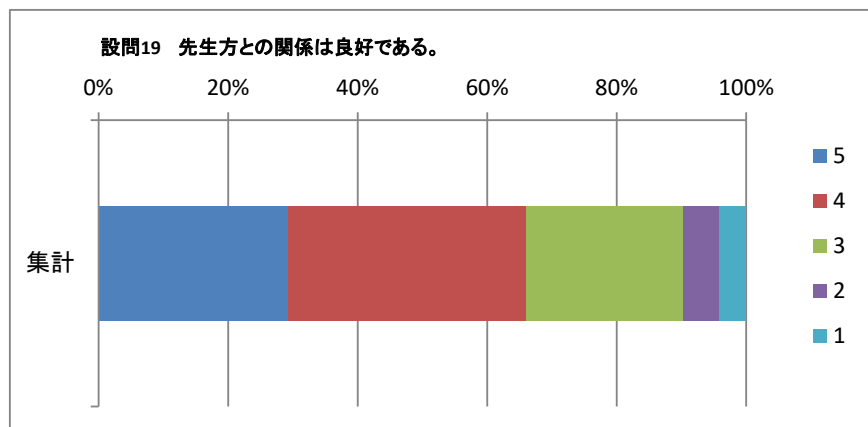
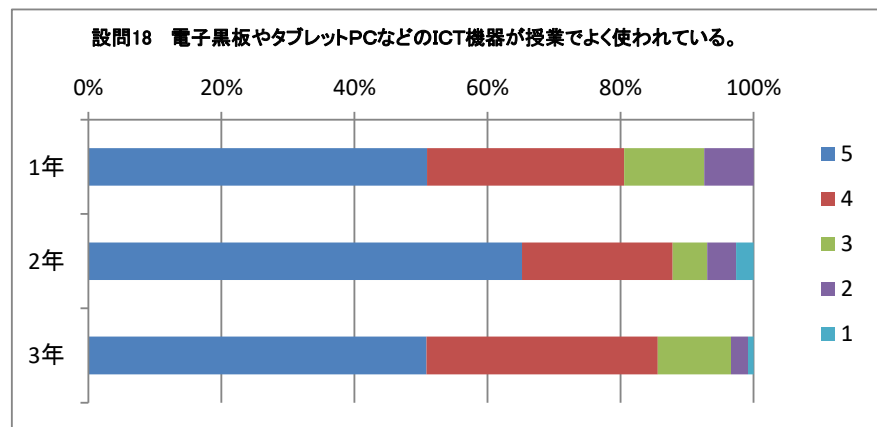
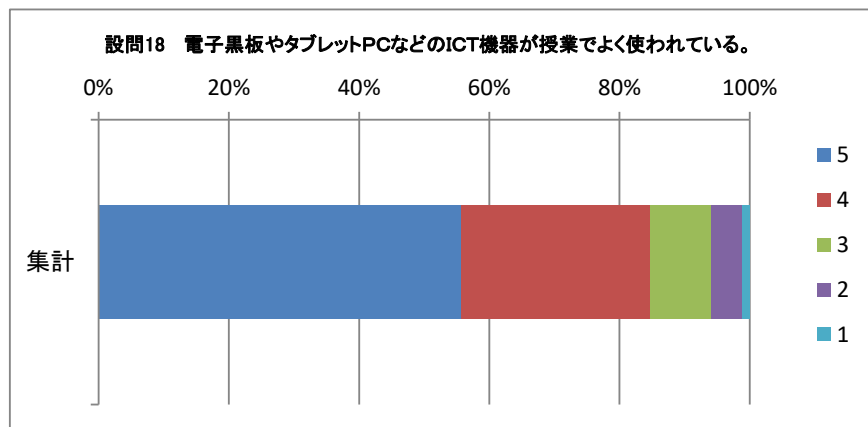
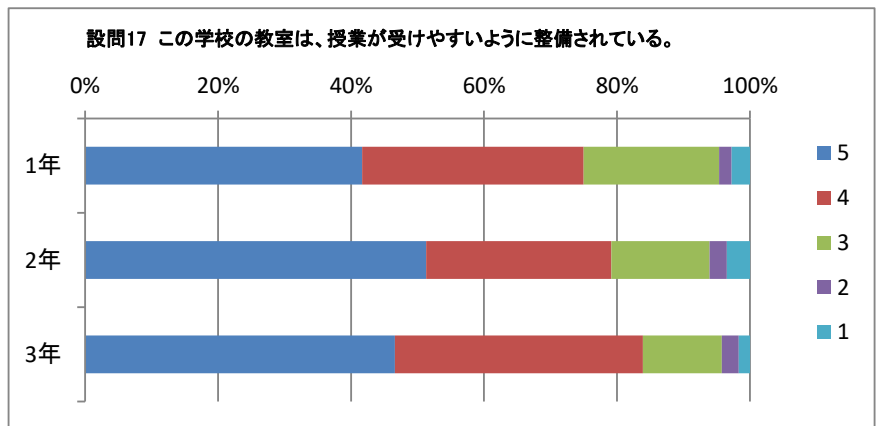
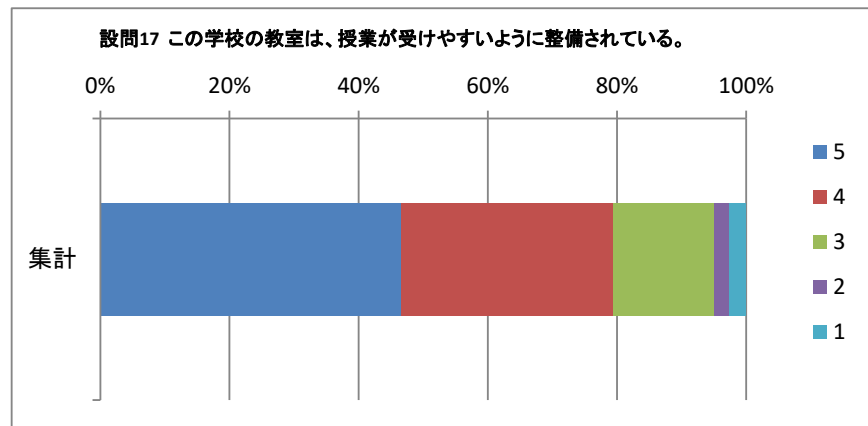
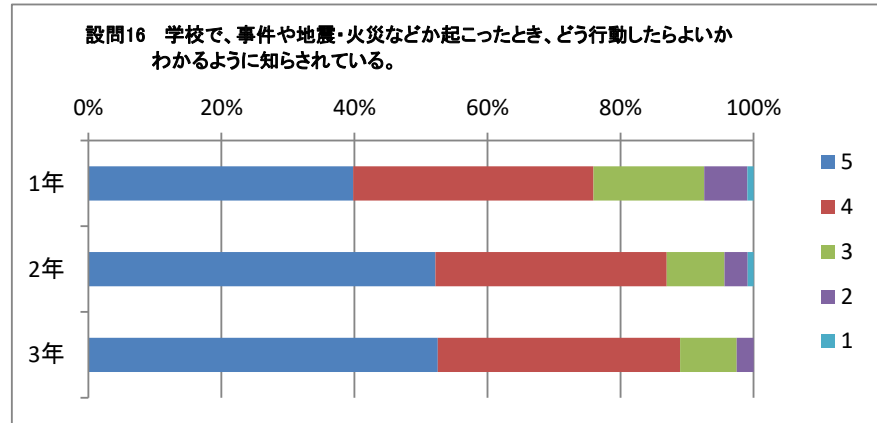
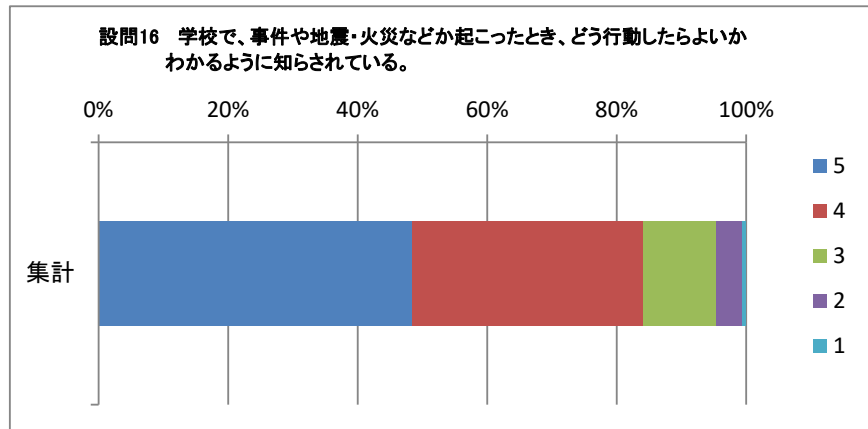
学年	在籍数	回答数
1年	108	108
2年	120	115
3年	120	118
合計	348	341

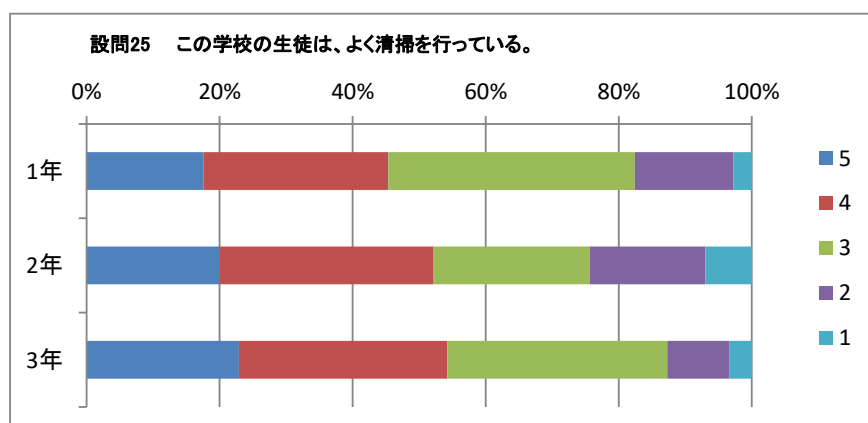
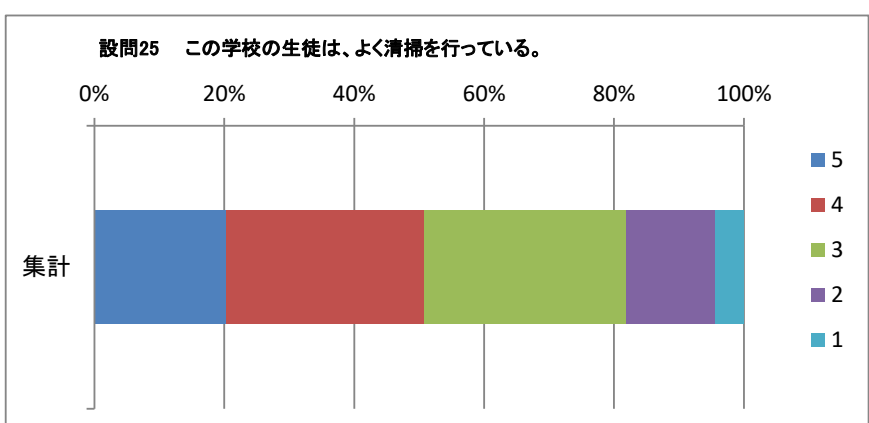
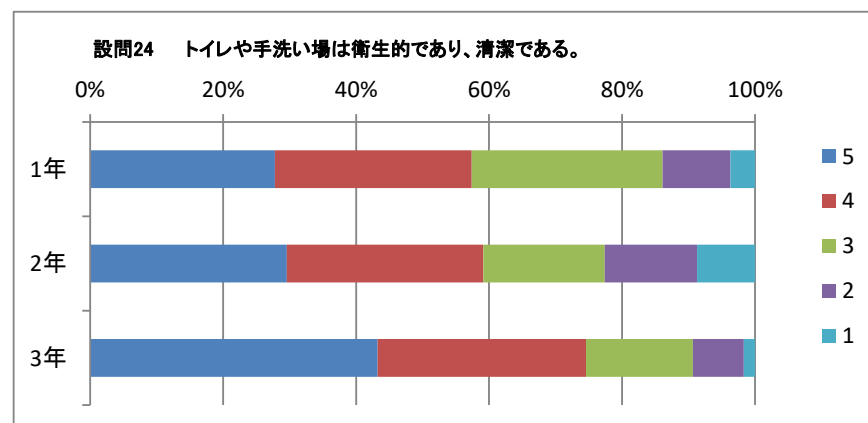
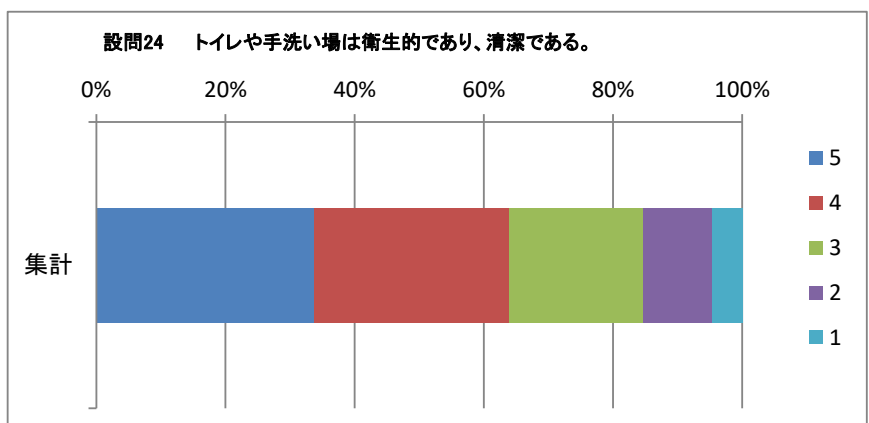
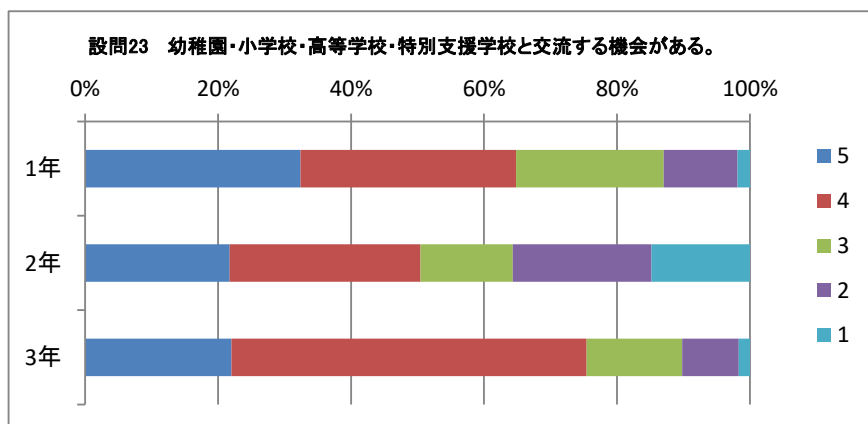
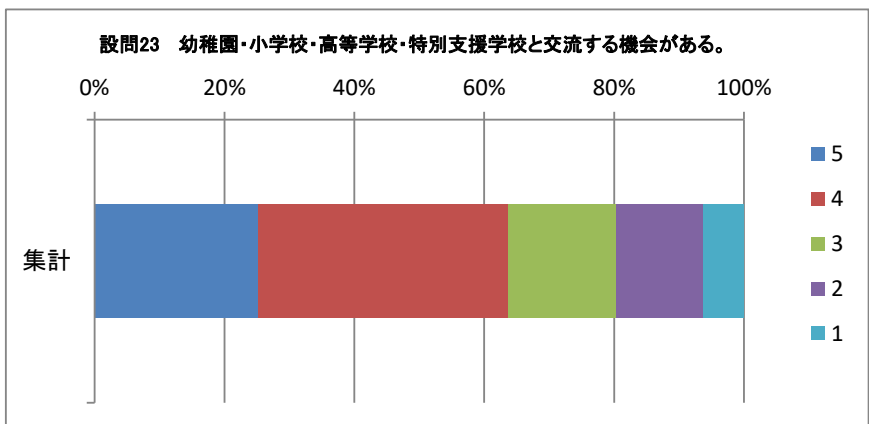
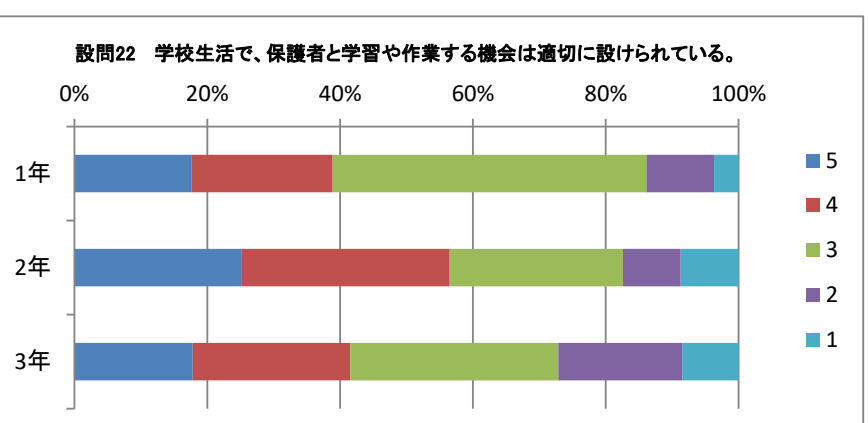
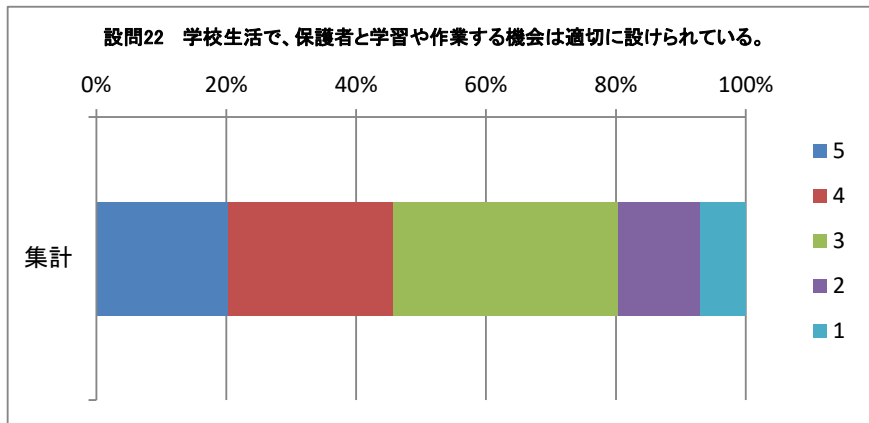
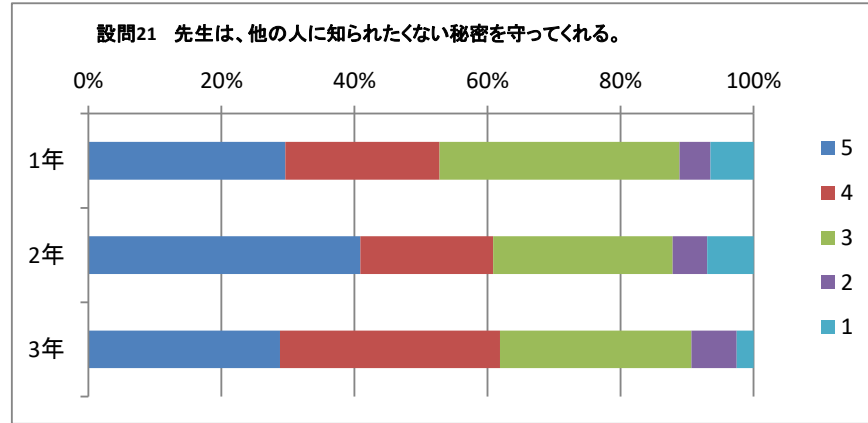
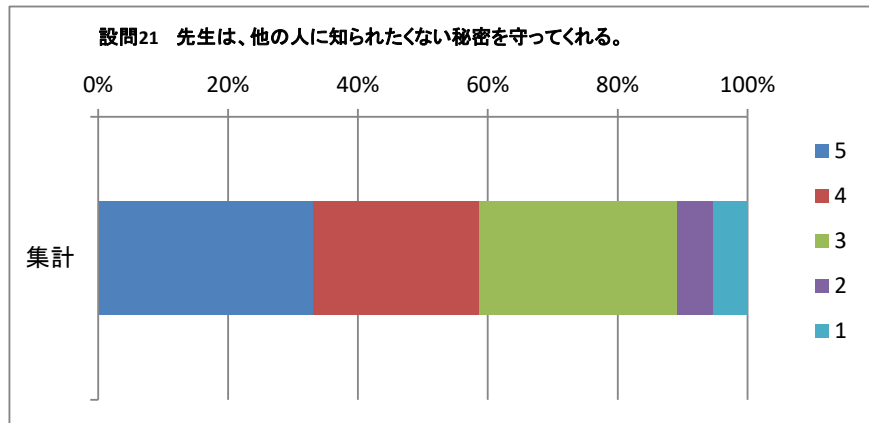
全体集計



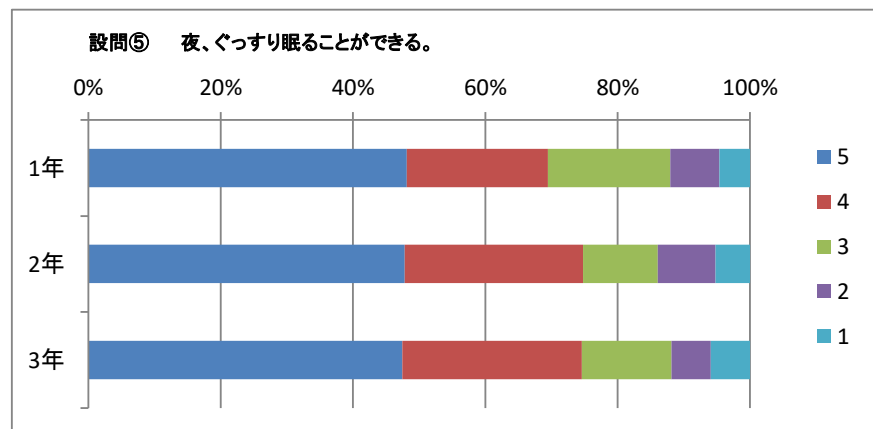
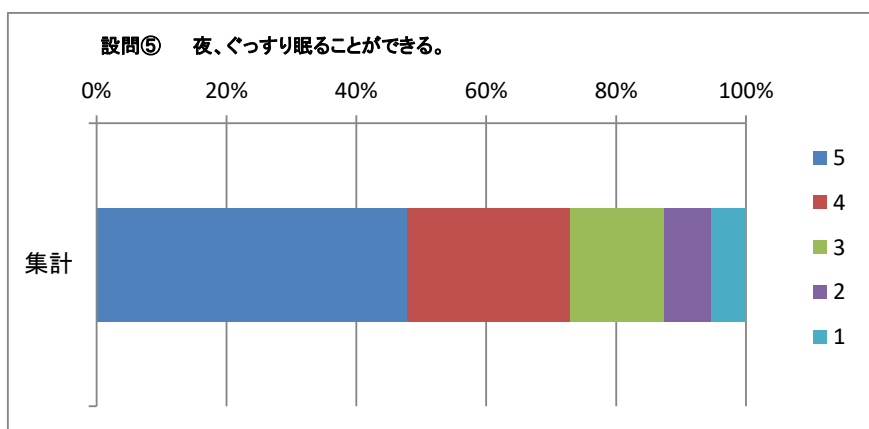
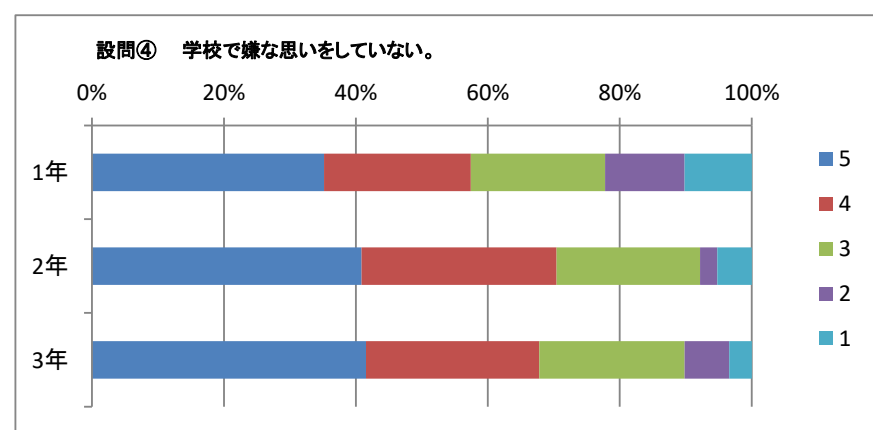
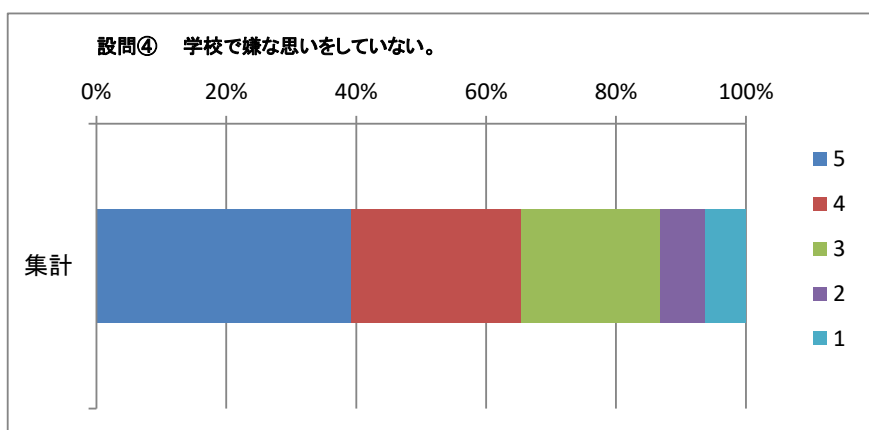
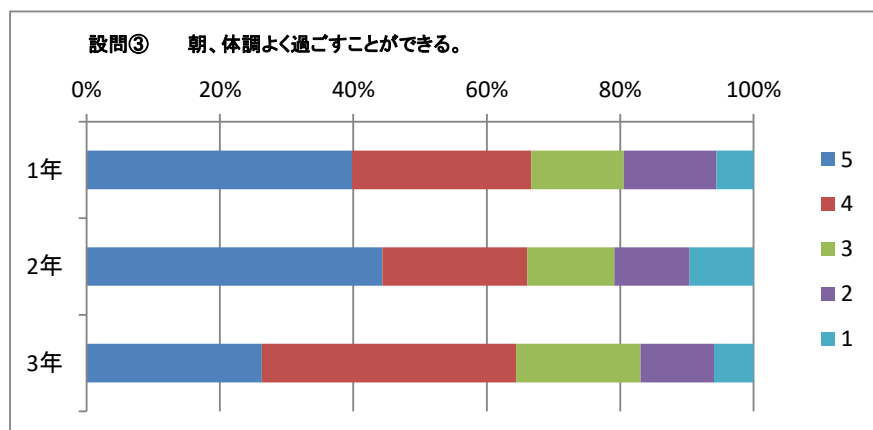
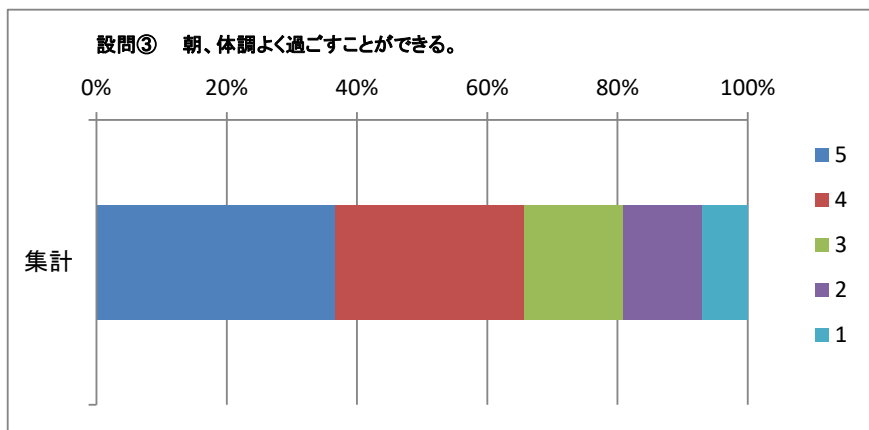
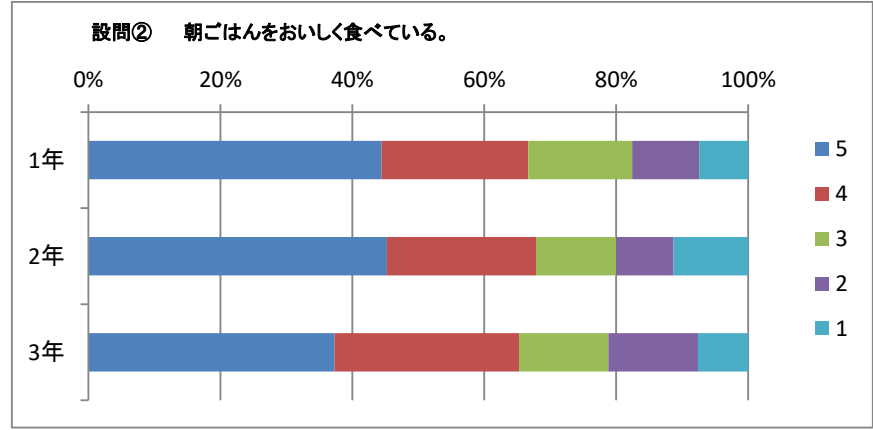
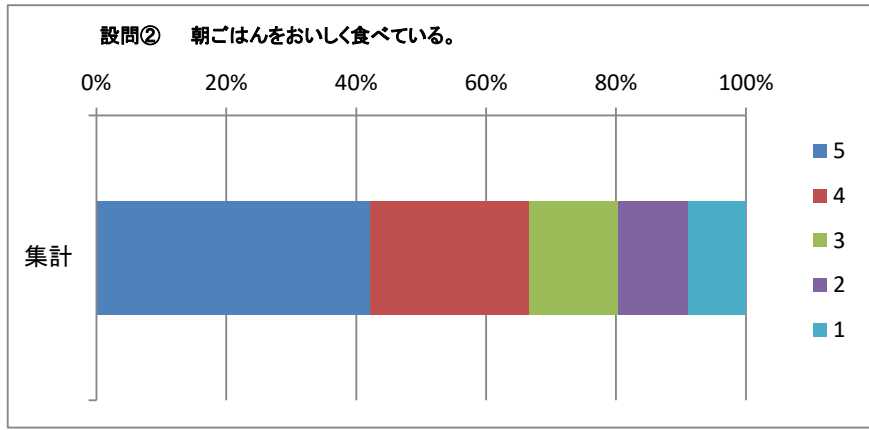
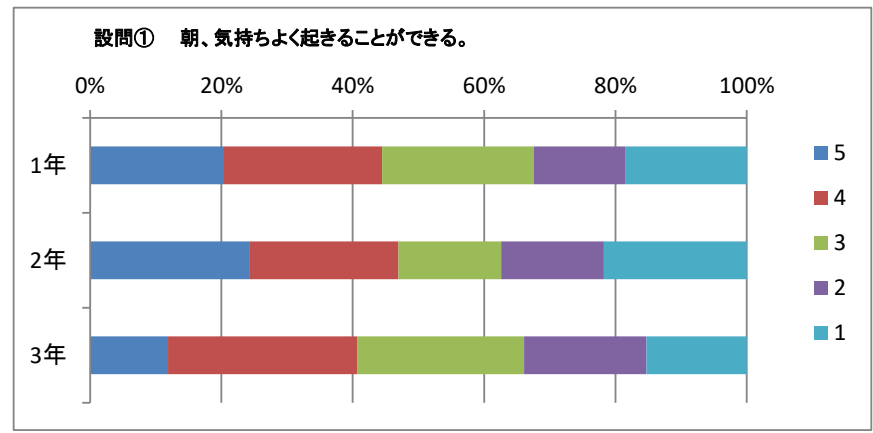
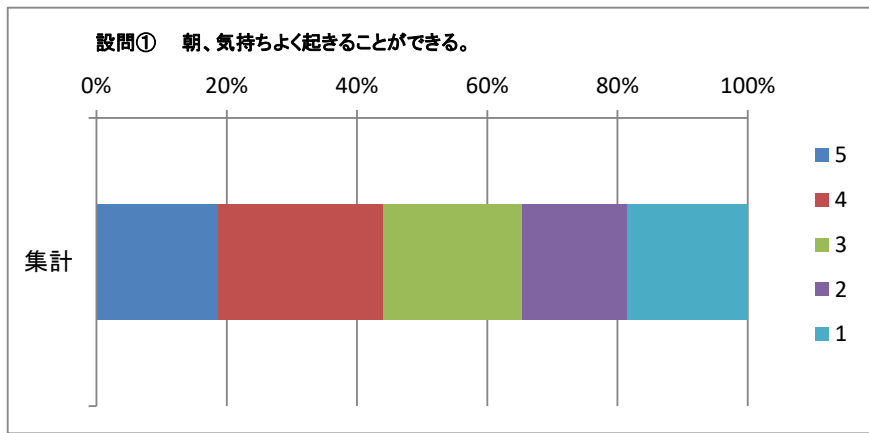


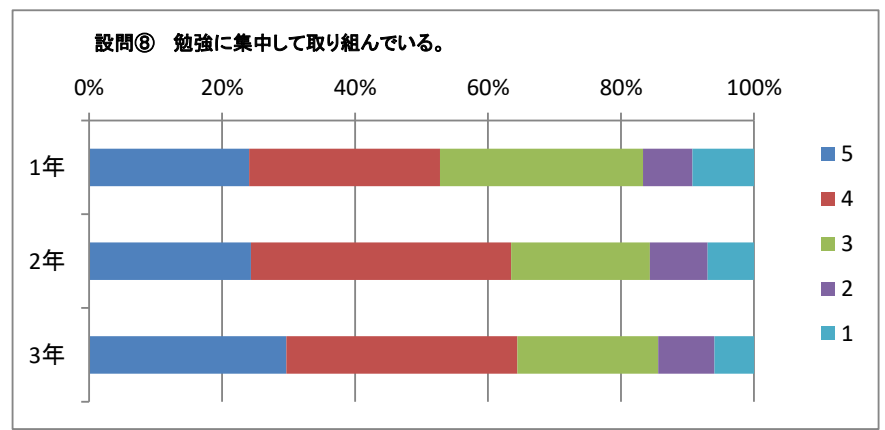
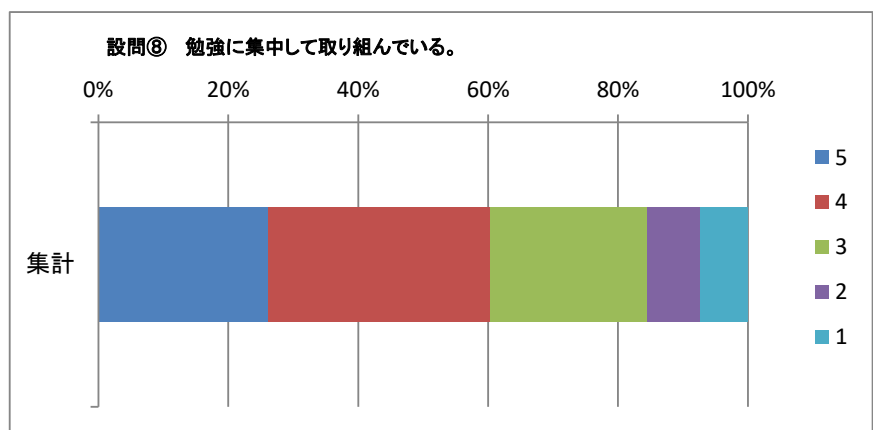
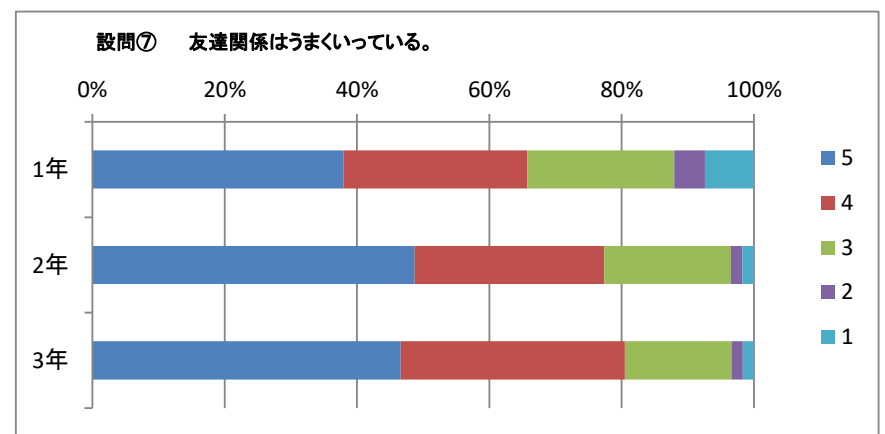
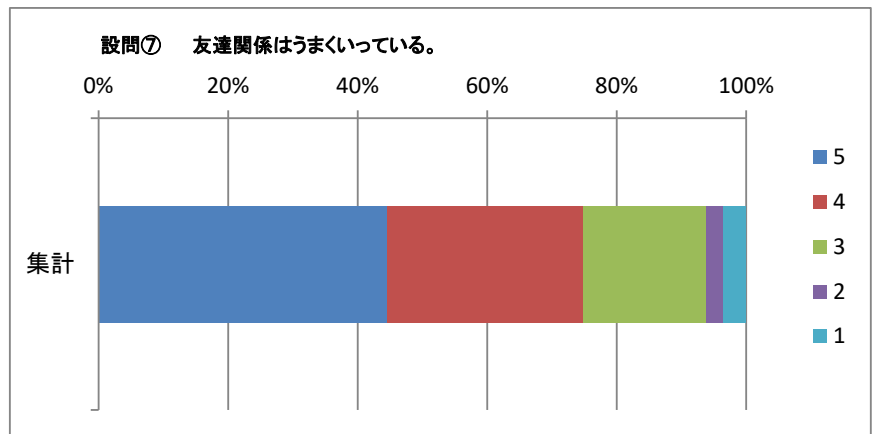
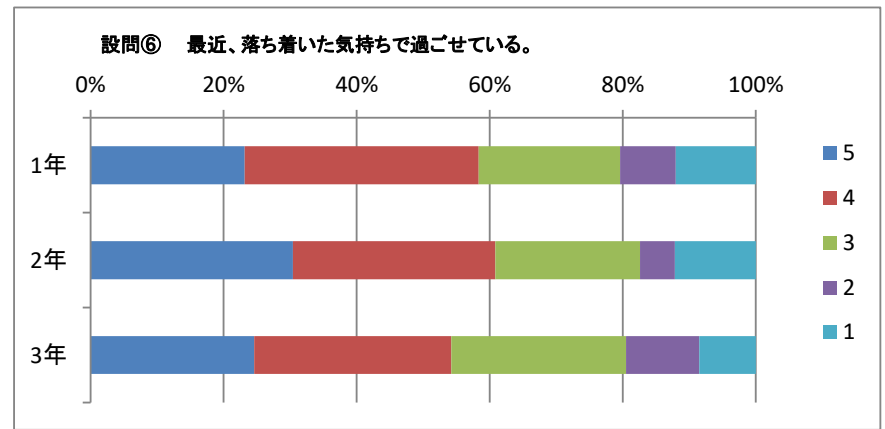
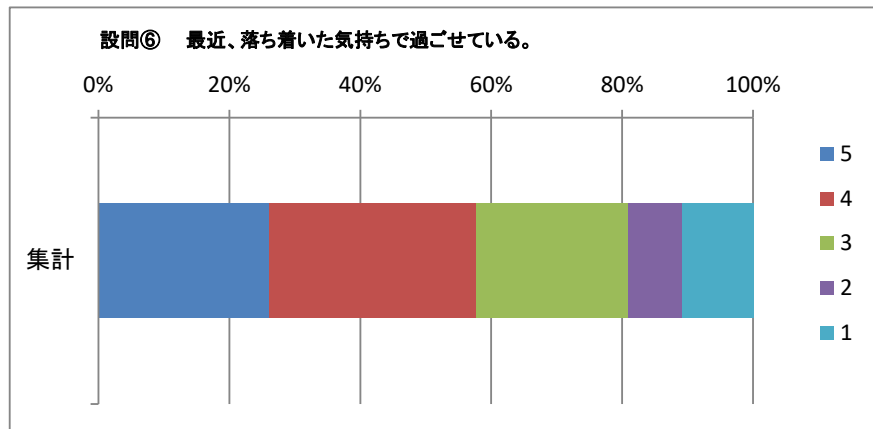






こころとからだのアンケート結果





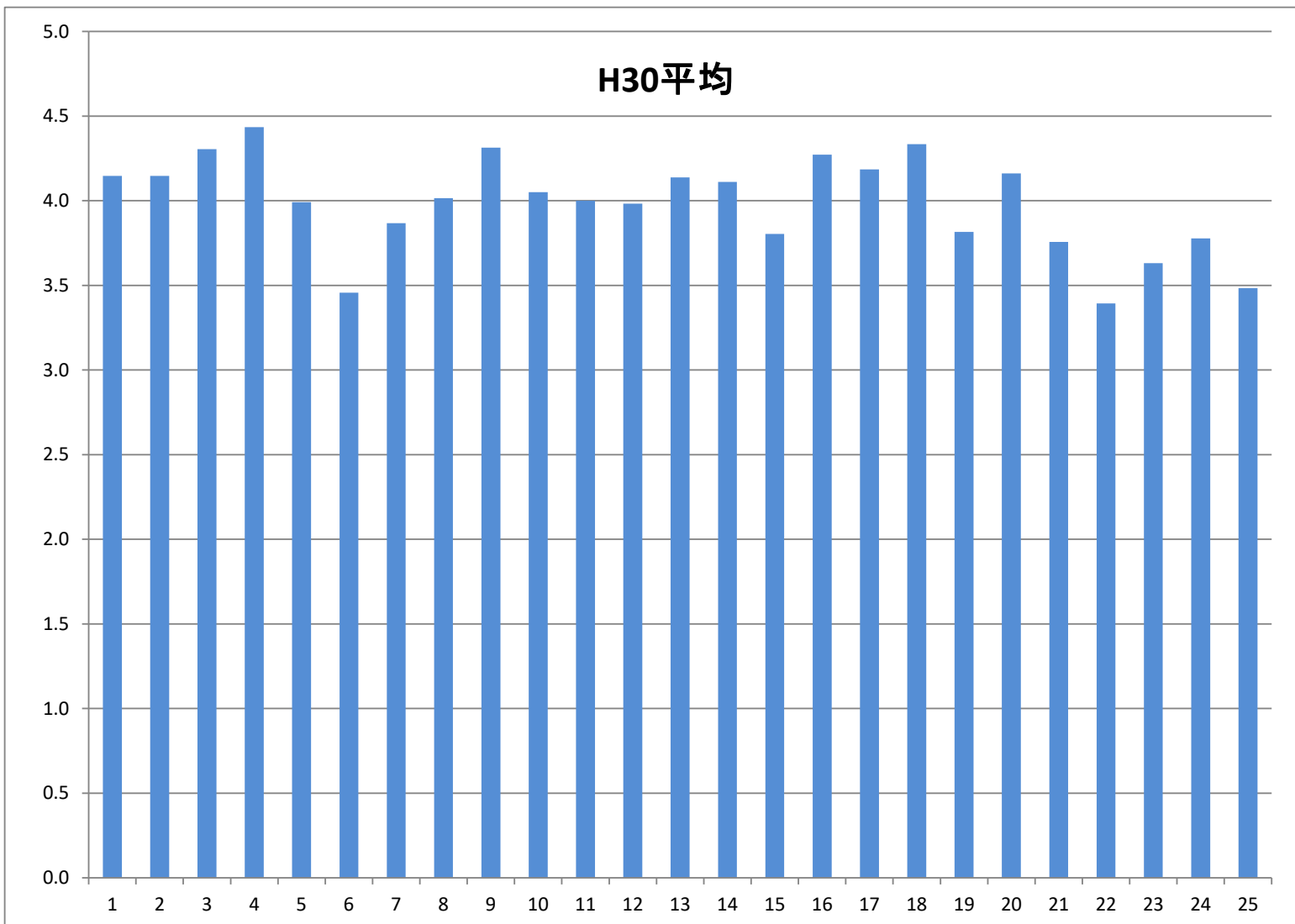
学校診断アンケート

 H29年度より伸びた項目

 H29年度より0.1～0.2下回った項目

設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
H30平均	4.1	4.1	4.3	4.4	4.0	3.5	3.9	4.0	4.3	4.0	4.0	4.0	4.1	4.1	3.8
H29平均	4.1	4.3	4.4	4.4	3.9	3.6	4.0	3.9	4.3	4.1	3.8	4.0	4.0	4.1	3.7
H28平均	4.2	4.2	4.4	4.4	3.9	3.5	3.9	3.9	4.4	4.1	4.0	4.1	4.1	4.2	3.5
H27平均	4.4	4.2	4.5	4.4	3.9	3.6	3.9	3.9	4.4	4.1	4.2	4.1	4.2	4.3	3.5
H26平均	4.4	4.2	4.3	4.4	3.9	3.6	4.0	3.8	4.4	4.2	4.0	4.0	4.3	4.3	3.6

設問	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
H30平均	4.3	4.2	4.3	3.8	4.2	3.8	3.4	3.6	3.8	3.5
H29平均	4.3	3.9	4.5	3.9	4.3	3.8	3.3	3.8	4.0	3.6
H28平均	4.3	4.1	4.4	4.6	4.4	3.9	3.3	3.3	4.1	3.5
H27平均	4.3	4.2	4.6	4.5		3.9	3.4	4.0	4.2	3.7
H26平均	4.3	4.2	4.6	4.5		4.0	3.5	3.9	4.3	3.9

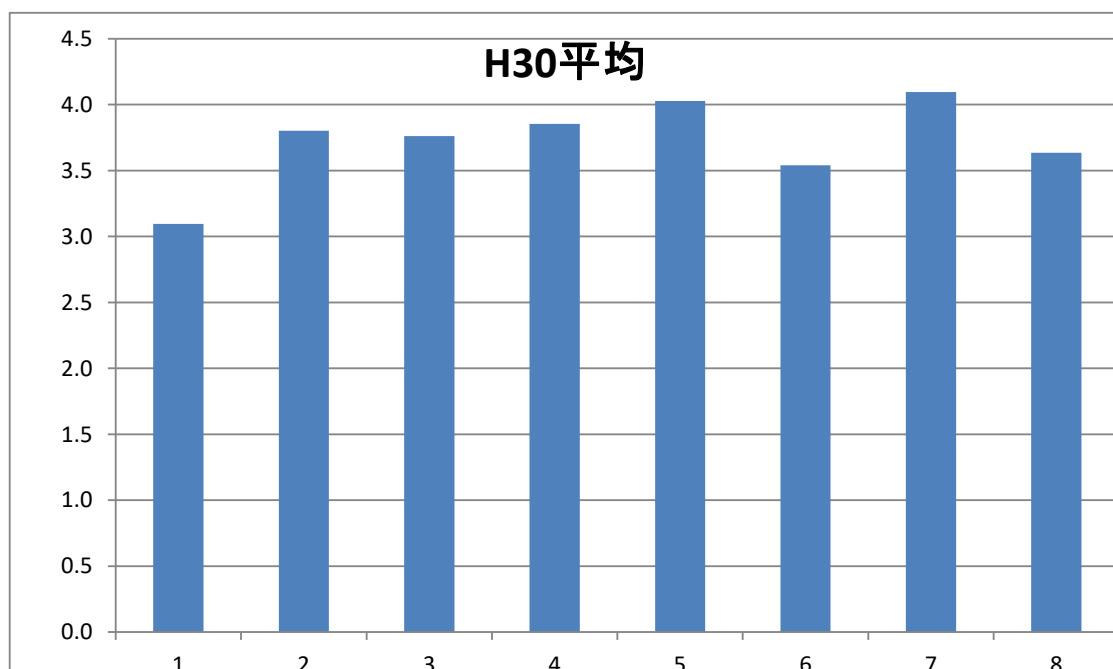


こころとからだのアンケート

 はマイナススケール

設問	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
H30平均	3.1	3.8	3.8	3.9	4.0	3.5	4.1	3.6
H29平均	3.0	3.9	3.7	3.8	4.1	3.5	4.0	3.8
H28平均	2.9	4.0	2.6	2.1	3.8	3.0	2.2	3.4
H27平均	3.1	4.0	2.7	2.0	3.9	3.0	2.3	3.2
H26平均	3.1	4.0	2.7	2.0	3.9	3.0	2.3	3.2

高いほど× 高いほど× 高いほど× 高いほど×

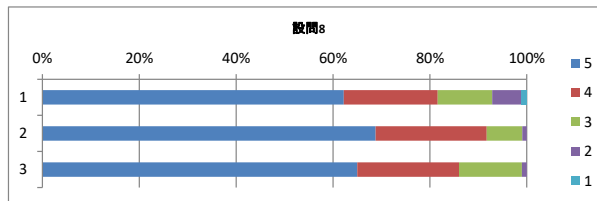
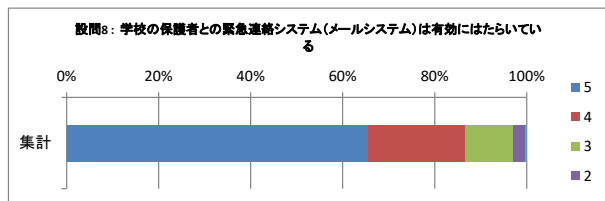
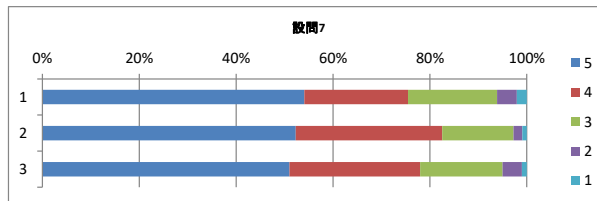
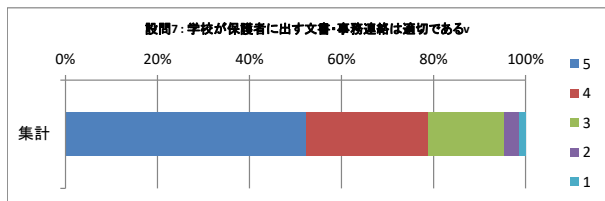
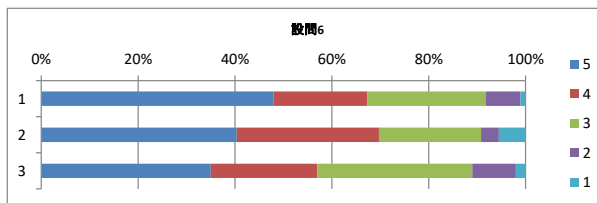
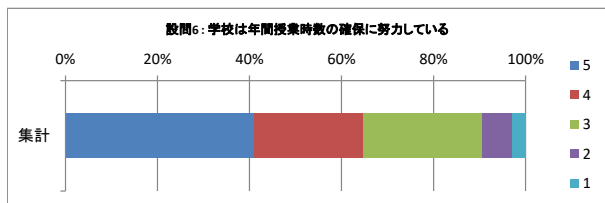
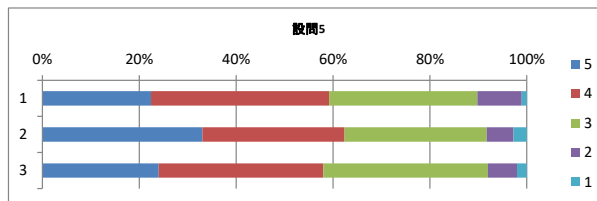
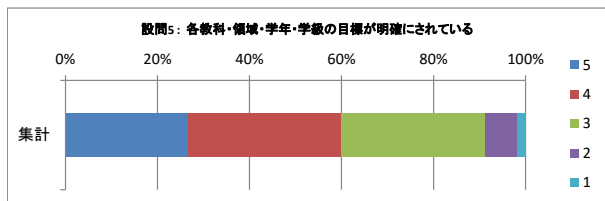
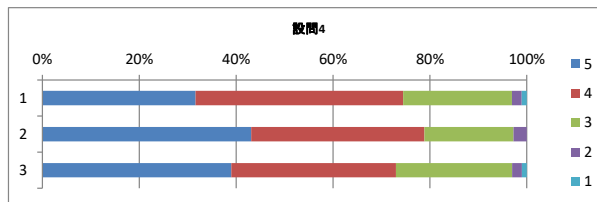
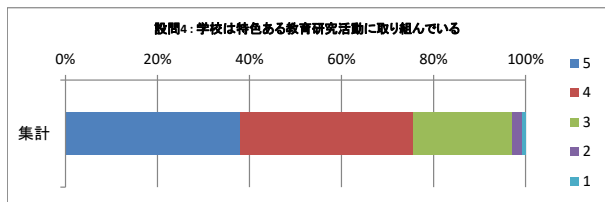
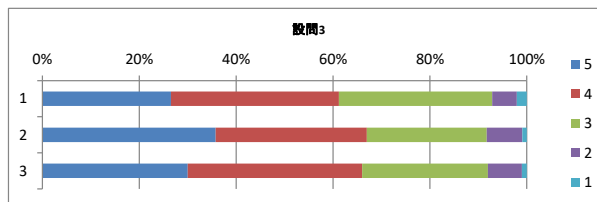
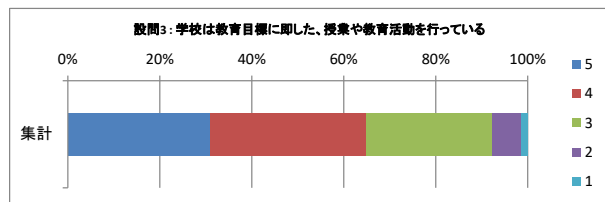
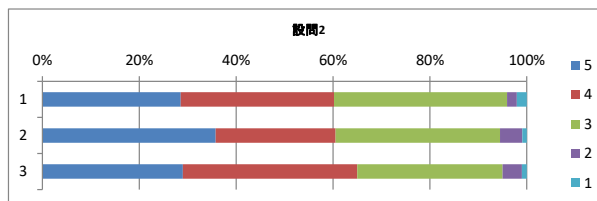
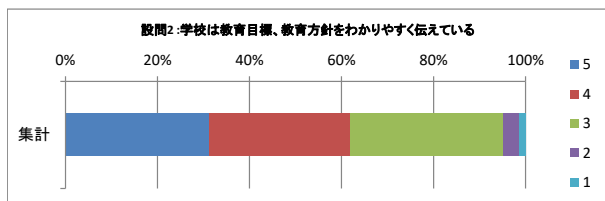
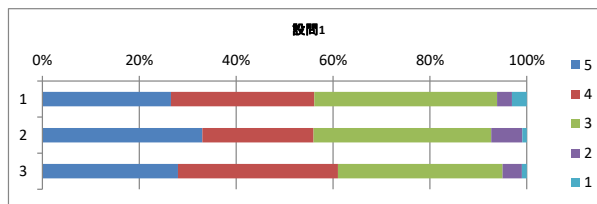
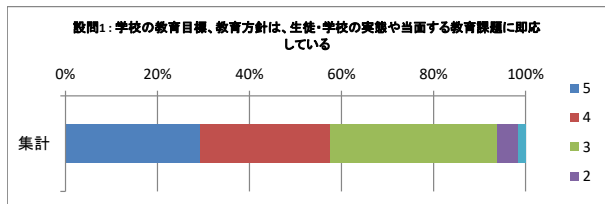


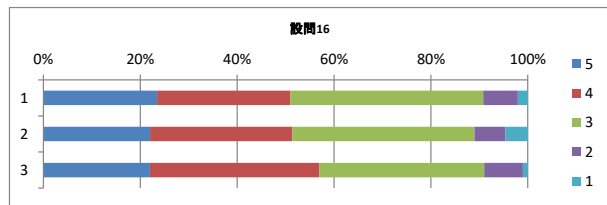
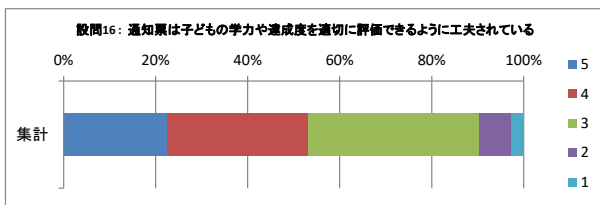
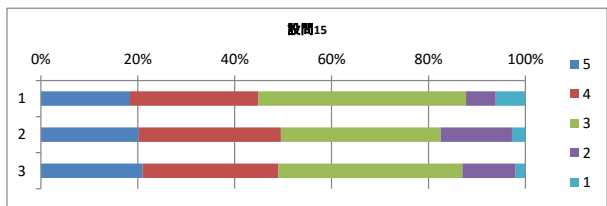
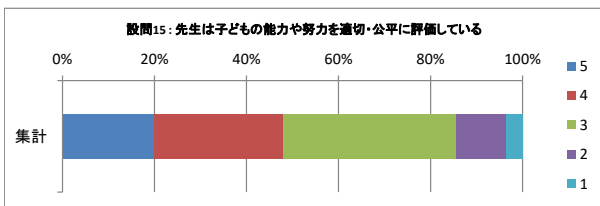
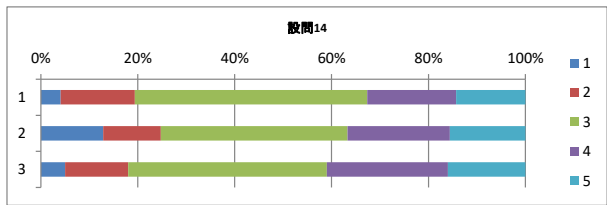
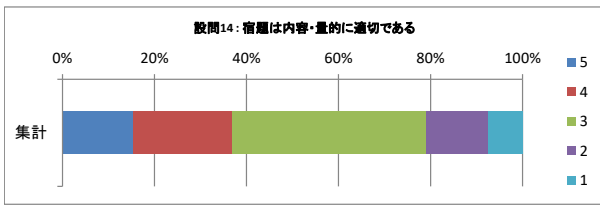
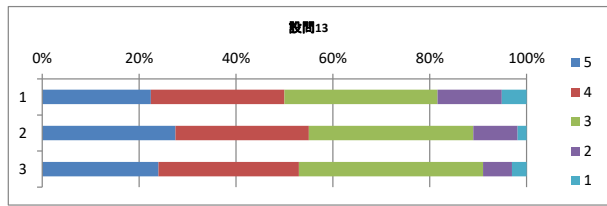
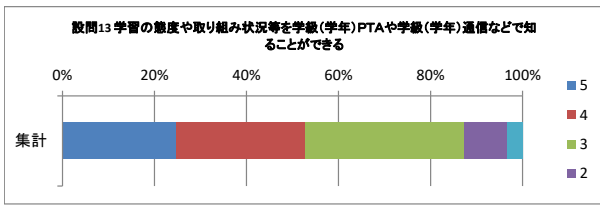
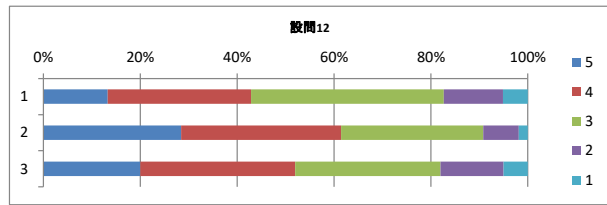
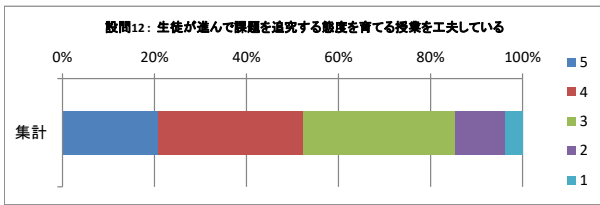
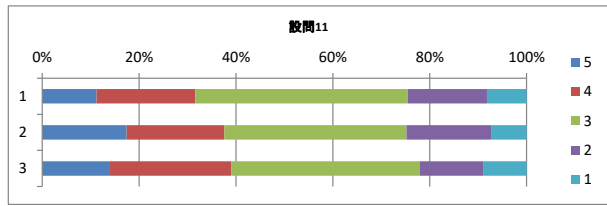
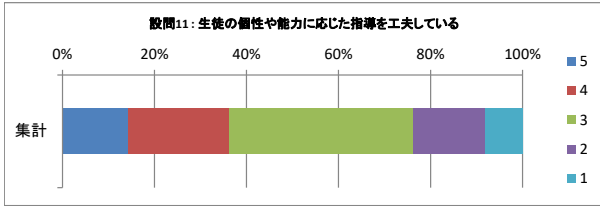
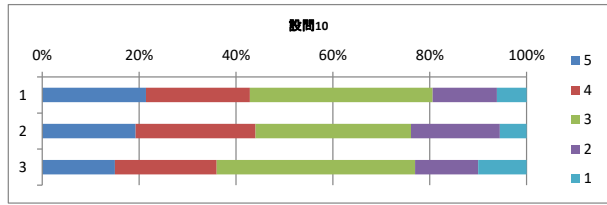
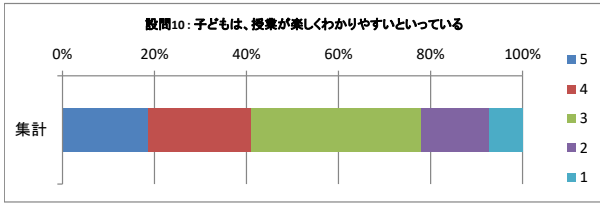
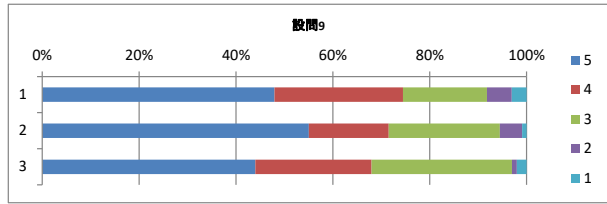
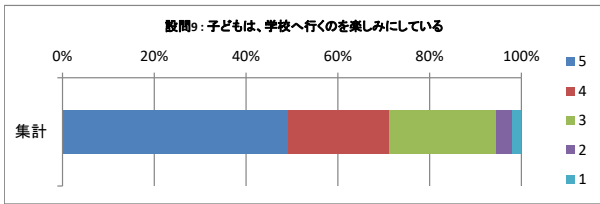
平成30年度 学校診断アンケート結果
保護者向け

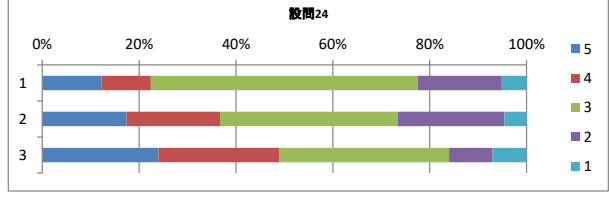
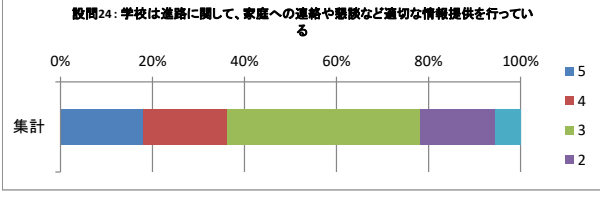
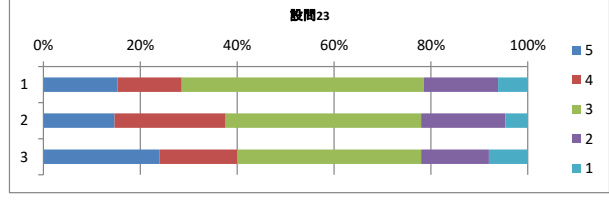
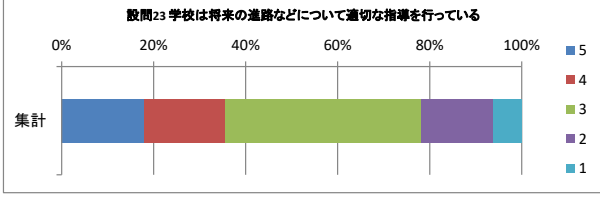
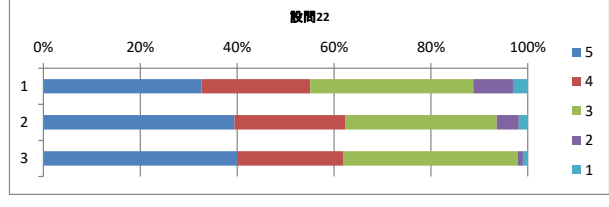
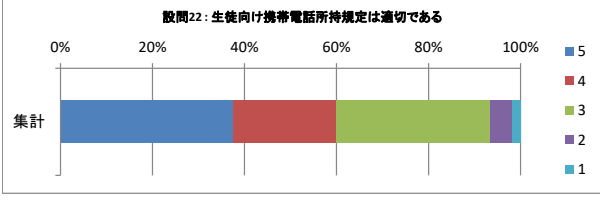
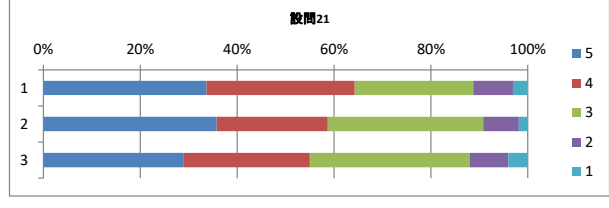
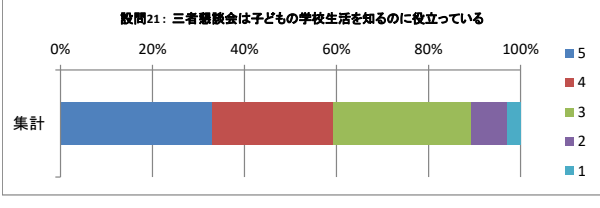
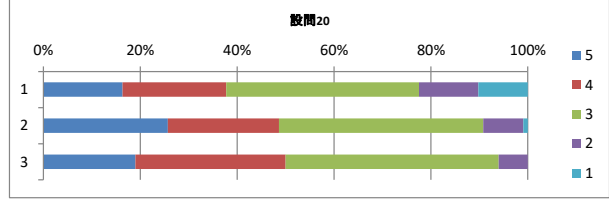
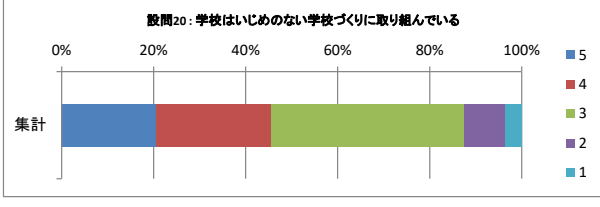
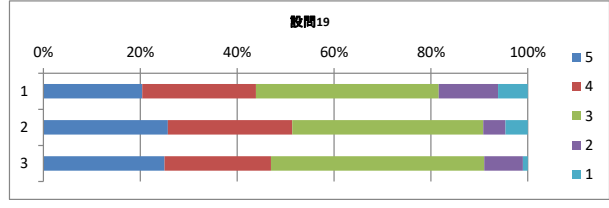
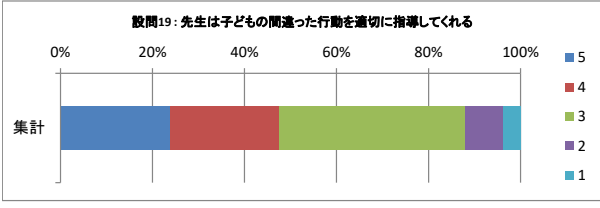
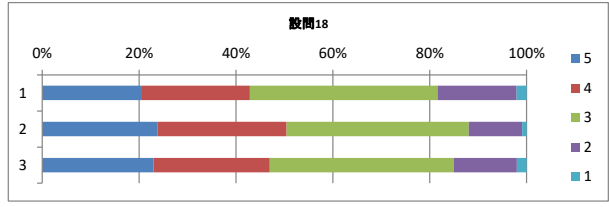
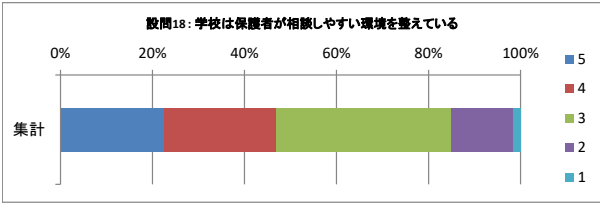
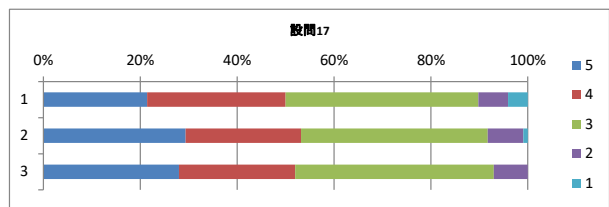
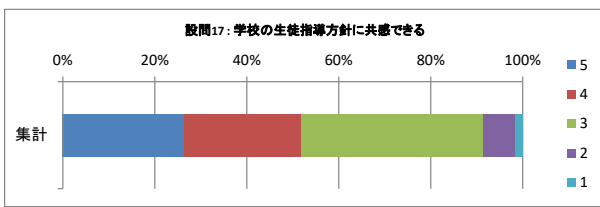
12月実施

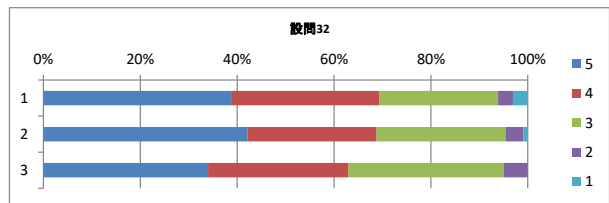
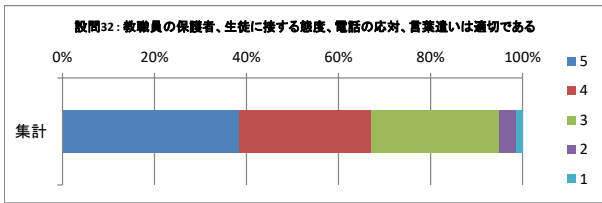
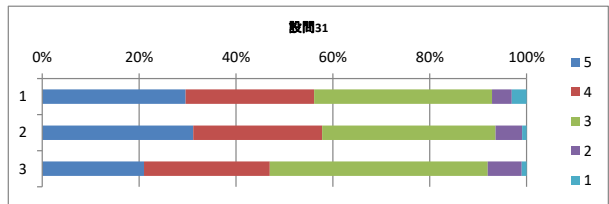
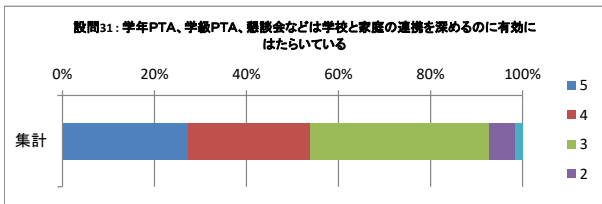
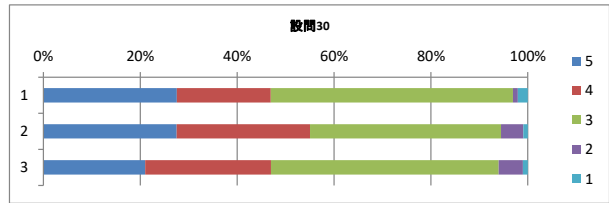
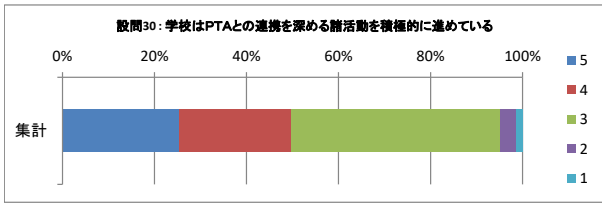
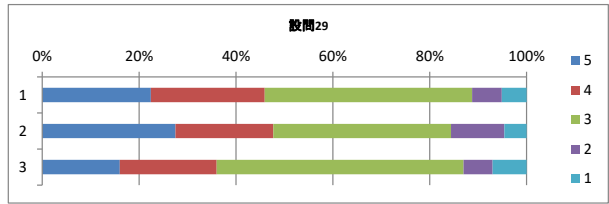
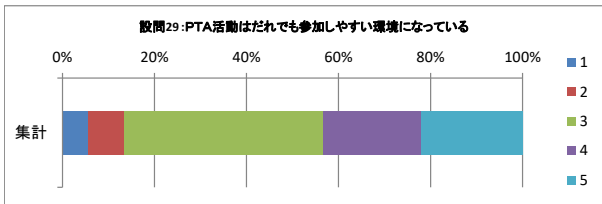
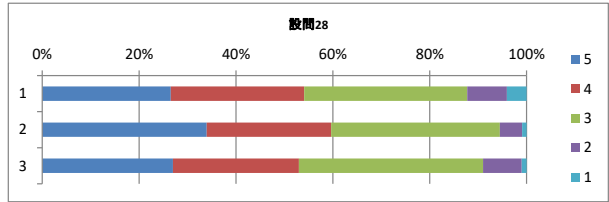
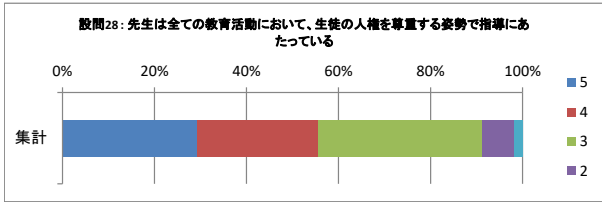
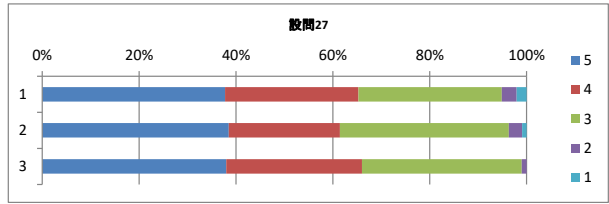
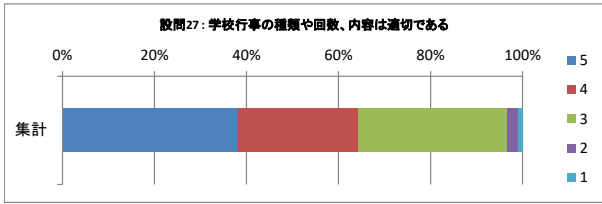
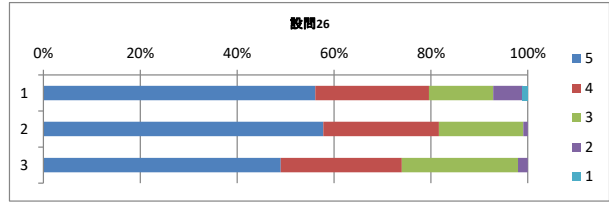
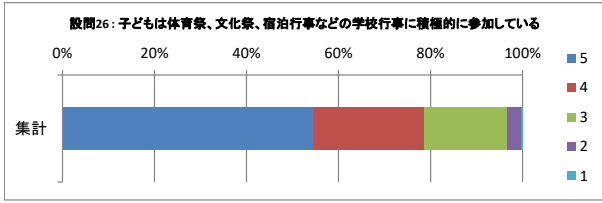
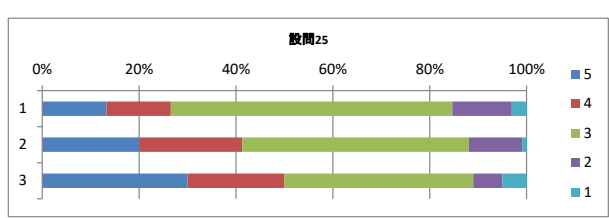
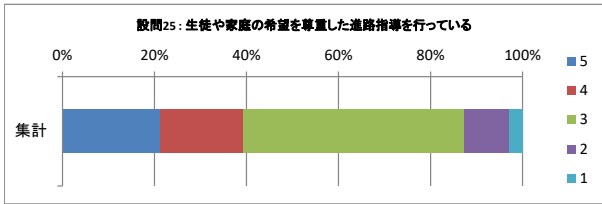
学年	在籍数	回答数
1年	108	98
2年	120	109
3年	120	100
合計	348	307

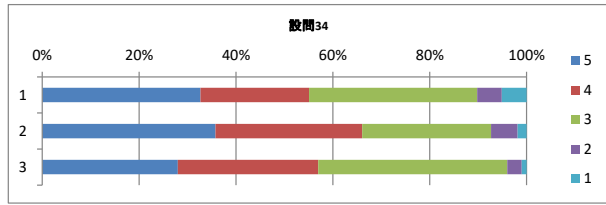
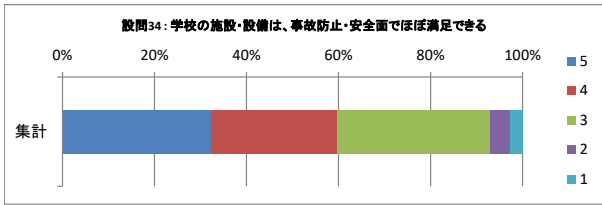
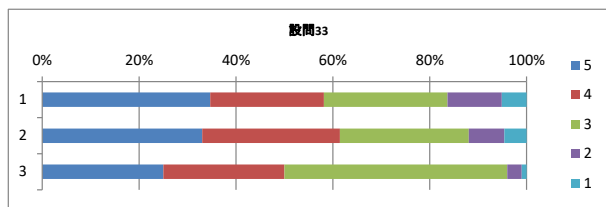
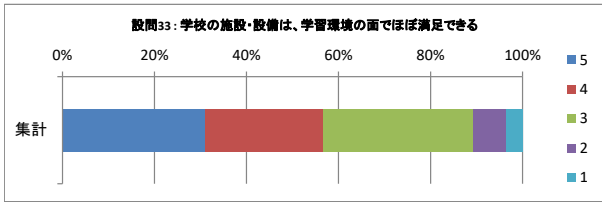
- 1 よい
- 2 ややよい
- 3 普通
- 4 やや不十分
- 5 不十分











各項目の平均点

■ H29より伸びた項目

■ H29を下回った項目

設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
H30年度	3.8	3.9	3.9	4.1	3.8	3.9	4.3	4.5	4.1	3.3	3.2	3.5	3.6	3.2	3.5
H29年度	3.8	3.9	3.8	4.1	3.7	3.6	4.0	4.3	4.2	3.3	3.2	3.5	3.6	3.1	3.5
H28年度	3.8	3.9	3.8	4.1	3.8	3.6	4.1	4.3	4.2	3.2	3.1	3.5	3.8	3.2	3.5

設問	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
H30年度	3.6	3.7	3.5	3.6	3.5	3.8	3.9	3.3	3.3	3.4	4.3	4.0	3.7	3.5	3.7
H29年度	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.7	3.9	3.2	3.3	3.4	4.3	3.9	3.7	3.3	3.6
H28年度	3.6	3.7	3.5	3.5	3.6	3.7	3.9	3.2	3.3	3.3	4.3	3.9	3.7	3.3	3.6

設問	31	32	33	34
H30年度	3.7	4.0	3.7	3.8
H29年度	3.6	4.0	3.6	3.7
H28年度	3.7	4.1	3.7	3.7

